

第3期伊勢市環境基本計画 施策推進確認及び中間年における総括評価シート

資料2

基本目標1 低炭素で地球にやさしい社会の構築

評価: A:実施できた
B:概ね実施できた
C:ほとんど実施できなかった
D:実施していない

中間年総括評価: A:順調に進んだ
B:進んだ
C:進まなかった

(1) 温室効果ガスの排出抑制

施策	主な取組	担当課	令和2年度実績			令和3年度実績			令和4年度実績			令和5年度実績			第3期環境基本計画の中間年における総括			
			取組実績	取組実績	取組実績	取組実績	取組実績	取組実績	取組実績	取組内容	事業名	取組実績	評価	取組の総括 (成果、課題等)	今後の方向性	中間年 総括評価	備考	
①地域と調和した再生可能エネルギーの導入促進	公共施設への太陽光発電設備等の再生可能エネルギー機器の導入	学校施設整備課 ※令和5年度まで教育総務課	みなど小学校に20kWの太陽光発電設備を設置した。	みなど小学校に20kWの太陽光発電設備を設置する。令和3年度から令和4年度の継続事業として、事業着手した。	二見浦小学校・二見中学校に20kWの太陽光発電設備を設置した。	二見浦小学校・二見中学校に20kWの太陽光発電設備を設置した。	-	-	-	-	-	-	-	発電状況等を示すディスプレイを設置し、再生可能エネルギーの普及啓発及び児童生徒への環境教育の推進を図った。	今後も、新たに整備を行う学校施設においては、太陽光発電設備の設置を行っていく。	A		
		環境課	-	-	-	-	各部署に導入を働きかけるなど、横断的な取組をしていく。	-	再生可能エネルギー由来の電力利用を促進するため、伊勢市公共施設等の脱炭素化方針案を作成し、令和6年度の運用を目指した。	B	再生可能エネルギー由来の電力利用を促進するため、伊勢市公共施設等の脱炭素化方針案を作成し、令和6年度の運用を目指した。公共施設への再生可能エネルギー機器の導入に向けて、庁内の意識向上を図る必要がある。	令和6年度に伊勢市公共施設等の脱炭素化方針を策定し、再生可能エネルギー由来の電力利用により、温室効果ガス排出量削減を目指す。	C					
	環境課	R1年度の繰越24件分の補助を行った。(R1年度をもって補助事業終了)	商業施設で実施したパネル展において太陽光発電設備のPRを行った。	環境フェアや商業施設・市立図書館で実施したパネル展において太陽光発電設備のPRを行った。	太陽光発電設備のPRを行うとともに、県の共同購入事業の周知に努め、普及促進を図る。	-	太陽光発電設備のPRを行うとともに、県の共同購入事業の周知に努め、普及促進を図る。自家消費型の太陽光発電設備・蓄電池の設置に対して補助制度を創設し、補助金を交付した。 【交付実績】7件	A	太陽光発電設備のPRを着実に進めることができた。県の共同購入事業の周知、自家消費型の太陽光発電設備・蓄電池への補助により普及促進ができた。今後も、家庭・事業者の意識改革が求められる。	引き続き太陽光発電設備PRを行うとともに、県の共同購入事業、自家消費型の太陽光発電設備・蓄電池への補助などを周知啓発し、更なる普及促進を図る。	A							
	環境課	国・県・市が定めるガイドライン等に基づき、環境・景観に配慮し、地域と調和した適正な太陽光発電の導入を図るための指導を行った。	国・県・市が定めるガイドライン等に基づき、環境・景観に配慮し、地域と調和した適正な太陽光発電の導入を図るための指導を行った。	国・県・市が定めるガイドライン等に基づき、環境・景観に配慮し、地域と調和した適正な太陽光発電の導入を図るための指導を行った。	国・県・市が定めるガイドライン等に基づき、環境・景観に配慮し、地域と調和した適正な太陽光発電の導入を図る。	-	国・県・市が定めるガイドライン等に基づき、環境・景観に配慮し、地域と調和した適正な太陽光発電の導入を図るための指導を行った。	A	各年度において、国・県・市が定めるガイドライン等に基づき、環境・景観に配慮し、地域と調和した適正な太陽光発電の導入を図るための指導を行うことができた。ただし、対象外の施設に対して指導が行き届かないことが課題である。	引き続き県のガイドラインに基づき適切な指導を行い、広報等により適正導入を啓発する。対象外の施設に対しても、関係法令の遵守を呼びかけていく。	A							
②環境負荷が少ないライフスタイルや事業活動への転換促進	住宅等の太陽光発電設備の設置を促進	ごみ減量課	回収したてんぷら油について、市内公衆浴場での焚き付け材にかわる燃料として利用を図った。(R2実績: 24, 220ℓ)	回収したてんぷら油について、市内公衆浴場での焚き付け材に代わる燃料として利用を図った。(R3実績: 21, 960ℓ)	回収したてんぷら油について、市内公衆浴場での焚き付け材に代わる燃料や、バイオディーゼル燃料として利用を図った。 【実績】 ・焚付代替燃料: 7, 870ℓ ・バイオディーゼル燃料: 10, 335ℓ	回収したてんぷら油について、バイオディーゼル燃料として再利用を図る。	資源ごみ売却収入	回収したてんぷら油について、バイオディーゼル燃料として再利用を図った。 【R5実績: 22, 965ℓ】	A	平均して年21, 838ℓのてんぷら油を回収し、燃料として再利用した。令和2年度と比較すると回収量は減少していることから、てんぷら油が資源物として回収できることなどを改めて周知し、資源物として排出するよう市民に働きかける必要がある。	引き続きてんぷら油を回収し、燃料として再利用していくとともに、市民へ資源物として回収できることなどの周知を行っていく。	A						
		資産経営課	車庫及び水防倉庫の照明をすべてLED化した。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	令和2年度に車庫及び水防倉庫の照明をすべてLED化し、省エネルギー化を図った。	引き続き、公共施設の省エネルギー化については、より革新的な技術がないか情報収集に努めていく。	B			
	維持課	道路照明施設にLED球を設置及び取替を行った。	道路照明施設にLED球を設置及び取替を行った。	道路照明施設へのLED球の設置及び取替を行った。	道路照明施設へのLED球の設置及び取替を行う。	・道路維持補修経費 ・交通安全施設整備事業 ・交通安全施設管理経費	道路照明灯の内、点灯不良となった施設の電球をLED球へ取替を行った。 【実績】N=71基	A	道路照明灯の内、点灯不良となった施設の電球をLED球へ取替を行った。今後も継続してLED化に取り組んで行くことが重要である。	引き続き、点灯不良、新規設置及び老朽化が著しい道路照明灯について、LED化を図っていく。	A							
	学校施設整備課 ※令和5年度まで教育総務課	みなど小学校校舎及び体育館にLED照明を設置した。	二見浦小学校・二見中学校にLED照明を設置する。令和3年度から令和4年度の継続事業として、事業着手した。	二見浦小学校・二見中学校校舎及び体育館にLED照明を設置した。	-	-	-	-	-	-	-	-	LED照明を設置することで、使用電力量の削減及び更新サイクルの延長による廃棄物削減を図った。	今後も、新たに整備を行う学校施設においては、LED照明を設置する。	A			
学校施設整備課 ※令和4年度まで教育総務課	-	小中学校の体育館の照明をLED照明に取り替えた。 【実績】 進修小・富山小・浜郷小・明野小・城田中・小俣中	小中学校の体育館の照明をLED照明に取り替えた。 【実績】 厚生小・城田小・四郷小・上野小・港中・御園中	小中学校の体育館の照明をLEDに順次取り替えていく。 【予定】 修道小・早修小・明倫小・御園小	小学校整備事業	小学校の体育館の照明をLED照明に取り替えた。 【実績】 修道小・早修小・明倫小・御園小	A	照明のLED化を進めることで、使用電力量の削減及び更新サイクルの延長による廃棄物削減を図った。	今後も小中学校の体育館照明のLED化を進める。	A								
家電等、家庭で使われる機器の購入や買替えの機会を捉え、高効率機器への選択・転換の促進	環境課	-	商業施設で実施したパネル展において家電製品買い替えによるCO2削減効果を啓発した。また、5箇所の商業施設でチラシを配布する街頭啓発を実施した。	5箇所の商業施設で家電製品買い替えによるCO2削減効果を記載したチラシを配布する街頭啓発を実施した。広報いせにて省エネ家電買い替えを啓発した。	イベント等を通じて、家電製品の買い替えによるCO2削減効果を啓発する。	-	家電製品の買い替えによるCO2削減効果を啓発するため、イベントでのパネル展示、また、チラシを作成し、商業施設6箇所の街頭啓発などで配布した。	A	展示や街頭啓発等により家電製品買い替えによるCO2削減効果の啓発はできたが、CO2削減効果は実感しにくい。市民に分かりやすくCO2削減効果を伝える方法が求められる。	引き続きイベントでの展示や街頭啓発等により家電買い替えによるCO2削減効果の啓発をする。チラシなどで、CO2削減効果を分かりやすく示すことで、より省エネ家電への転換を促進する。	B							
電気自動車等の普及促進	環境課	自動車メーカー等との連携によりイベント等を通じて電気自動車のPRを進めた。イベント実施2日間 来場者 約400人	商業施設で実施したパネル展において電気自動車のPRを行った。	自動車メーカーと連携してイベントを開催し、電気自動車のPRを行った。(イベント実施1日間、来場者約80人)「次世代自動車等を活用したカーボンニュートラルの推進に関する包括連携協定」を締結し、超小型電気自動車の貸与を受け半年間の実証実験を実施している。(R5.9まで)	自治体として電気自動車の導入を進めるとともに、自動車メーカー等との連携によりイベント等を通じて電気自動車のPRを進める。	脱炭素社会推進事業	イベントで電気自動車の展示などを行い、また、商業施設において自動車メーカーと連携してイベントを開催し、電気自動車のPRを行い普及促進に努めた。令和4年度に「次世代自動車等を活用したカーボンニュートラルの推進に関する包括連携協定」を締結し、超小型電気自動車の貸与を受け実証実験を実施した。	A	自動車メーカーと連携してイベントを開催したり、商業施設等で電気自動車の展示などを行うことで普及促進に努めた。令和4年度に「次世代自動車等を活用したカーボンニュートラルの推進に関する包括連携協定」を締結し、超小型電気自動車の貸与を受け実証実験を実施した。	公用車の電動化方針を策定するなど、引き続き自治体として電気自動車の導入を進めるとともに、自動車メーカー等と連携をしながら、イベント等を通じて電気自動車のPRを進める。	A							

施策	主な取組	担当課	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績			第3期環境基本計画の中間年における総括				
			取組実績	取組実績	取組実績	取組内容	事業名	取組実績	評価	取組の総括 (成果、課題等)	今後の方向性	中間年 総括評価	備考
	省エネルギー型のライフスタイルやビジネススタイルを促進するため、省エネに関する講習会を開催	環境課	-	-	-	脱炭素経営を促進するため、事業所向けに脱炭素セミナーを開催する。	-	銀行等との連携により、事業者に脱炭素経営普及啓発をするための脱炭素経営セミナーを1回実施した。	B	令和5年度に銀行等との連携により、事業者に脱炭素経営普及啓発をするための脱炭素経営セミナーを実施した。事業者の脱炭素経営に対する意識の更なる向上が必要であるため回数を増やす必要がある。	銀行等と連携し、引き続き脱炭素経営を促進するための事業所向けセミナーを開催する。	B	
	事業所における省エネ診断等の促進	環境課	令和5年3月改定時に取組を新設したため取組実績なし。	令和5年3月改定時に取組を新設したため取組実績なし。	令和5年3月改定時に取組を新設したため取組実績なし。	事業所への支援制度を創設し、事業所における省エネ診断の促進を図る。	脱炭素社会推進事業	伊勢市事業所脱炭素化支援補助金交付要綱を制定し、中小企業者が実施する温室効果ガス排出量算定・省エネ診断等に対して補助金を交付した。【交付実績】10件	A	令和5年度に伊勢市事業所脱炭素化支援補助金交付要綱を制定し、中小企業者が実施する温室効果ガス排出量算定・省エネ診断等に対して補助金を交付し、事業所における省エネ診断等の促進に努めた。事業者の省エネ診断等に対する関心が薄いと考えられるため、意識向上を図る必要がある。	引き続き中小企業者が実施する温室効果ガス排出量算定・省エネ診断等に対して補助金を交付していき。事業者が実施する温室効果ガス排出量算定・省エネ診断等の必要性を理解してもらい、併せて補助制度の周知を実施する。	A	
	公共施設における電気、燃料、用紙等の使用量の抑制	環境課	環境管理システムを運用し、市役所本庁舎・総合支所等における電気、燃料、用紙等の使用量を抑制した。	環境管理システムを運用し、市役所本庁舎・総合支所等における電気、燃料、用紙等の使用量を抑制した。	環境管理システムを運用し、市役所本庁舎・総合支所等における電気、燃料、用紙等の使用量を抑制した。	環境管理システムを運用し、市役所本庁舎・総合支所等における電気、燃料、用紙等の使用量を抑制する。	-	環境管理システムを運用し、市役所本庁舎・総合支所等における電気、燃料、用紙等の使用量を抑制することに努めた。	B	環境管理システムを運用し、市役所本庁舎・総合支所等における電気、燃料、用紙等の使用量を抑制することに努めた。項目によって前年から増加しているものがあるため、各所属での意識付けが重要である。	引き続き、環境管理システムを運用し、市役所本庁舎・総合支所等における電気、燃料、用紙等の使用量を抑制する。各所属への周知啓発を実施していく。	B	
	エコドライブの普及促進	環境課	ケーブルテレビ行政放送により、エコドライブの特集番組を放送し啓発した。エコドライブ講習会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。	エコドライブ講習会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。代わりに、パネル展示やチラシ配布により啓発を行った。	エコドライブ講習会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。代わりに、イベント時にエコドライブシミュレーター体験やパネル展示、チラシ配布によりエコドライブの啓発を行った。	エコドライブの普及を進めるため、JAFとの連携により事業者向け座学講習の実施、及びイベントによる啓発を行う。	脱炭素社会推進事業	事業者向けのエコドライブ講習会を実施する予定であったが、申込がなく実施できなかった。イベント時にエコドライブシミュレーター体験やパネル展示、チラシ配布によりエコドライブの啓発を行った。	B	エコドライブ講習会については、新型コロナウイルス感染症の影響、申込がないなどの理由により実施できなかった。イベント等でのパネル展示・チラシ配布・エコドライブシミュレーター体験、ケーブルテレビ放送で啓発を行った。講習会の申込がなかったため、広報いせでの周知啓発などを考える必要がある。	イベント等でのパネル展示・チラシ配布・エコドライブシミュレーター体験、広報いせなどで引き続き啓発を実施していく。	B	
	自転車の利用機会を拡大	観光誘客課	レンタサイクルを購入し、拡充した。 ・電動アシスト付自転車購入台数：15台 レンタサイクルを拡充し、連動した旅行商品の造成を行った。 ・造成した旅行商品数：2種類	レンタサイクルの旅行商品を造成、販売を行った。 ・販売した旅行商品数：166件	レンタサイクルの旅行商品の販売を行った。 ・販売した旅行商品数：294件	レンタサイクルの旅行商品の販売を行う。	着地型旅行商品造成販売事業	レンタサイクルの旅行商品の販売を行った。 ・販売した旅行商品数：350件	B	令和2年度にレンタサイクルを購入、旅行商品を造成。その後も、レンタサイクルを活用した旅行商品を継続して販売している。	自転車の利用機会を拡大させる取組を検討、実施していきたい。	B	
		交通政策課	-	-	令和4年7月に伊勢志摩地域における自転車等活用検討会を立ち上げた。また、企画部会議を2回開催し、「(仮称)伊勢志摩自転車等活用推進計画」および「(仮称)伊勢志摩自転車ネットワーク計画」の素案を作成した。	令和5年度中にパブリックコメントを実施し、年度末までに計画を策定する。	-	伊勢志摩地域の8市町において、「伊勢志摩自転車等活用推進計画」および「伊勢志摩自転車ネットワーク計画」を令和6年2月に策定した。	A	「伊勢志摩自転車等活用推進計画」および「伊勢志摩自転車ネットワーク計画」を伊勢志摩地域8市町で策定したことで、今後の取り組みの方向性を示すことができた。	策定した計画に基づき、各分野において自転車等活用される取り組みを推進していく。	B	
		観光振興課	-	-	観光客に対してレンタルサイクル貸出サービスを実施した。 【実績】4,398台	観光客に対してレンタルサイクル貸出サービスを実施する。	-	観光客に対してレンタルサイクル貸出サービスを実施した。 【実績】4,559台	A	より効果的な貸出場所への変更によって、実績台数は増加した。今後、二次交通としての役割を発信していく必要がある。	伊勢志摩地域自転車等活用推進計画に基づき、サイクリングルートの策定をしていく。また来訪した観光客の二次交通として自転車の利用機会を拡大させる取組を検討していく。	A	
	みえエコ通勤デーの啓発等による公共交通の利用を促進	環境課	ノーマイカーウィークの庁内啓発により公共交通の利用促進を図った。	ノーマイカーウィークの庁内啓発により公共交通の利用促進を図った。	ノーマイカーウィークの庁内啓発により公共交通の利用促進を図った。	広報等でみえエコ通勤デーの啓発を行うとともに、ノーマイカーウィークの庁内啓発により公共交通の利用促進を図る。	-	ノーマイカーウィークの庁内啓発により公共交通の利用促進を図った。	B	広報等でみえエコ通勤デーの啓発を行うことはできなかったが、ノーマイカーウィークの庁内啓発により公共交通の利用促進が図れた。	広報等でみえエコ通勤デーの啓発を行うとともに、引き続きノーマイカーウィークの庁内啓発により公共交通利用促進を図る。	B	
③低炭素型の都市基盤づくり	「伊勢市立地適正化計画」に基づく拠点となる地域への機能集約と活性化	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	連節バスを使用したBRT(バス高速輸送システム)導入等による公共交通の定時性・速達性の確保及び利用促進	交通政策課	R2.12.19から三重交通路線バス「外宮内宮線」で連節バス『神都ライナー』のプレ運行が開始された。	新型コロナウイルス感染症の流行による利用減少を考慮し臨時ダイヤを設定するなど、利用状況に合わせた柔軟なダイヤを運用することで、環境面に配慮しつつ定時性・速達性の確保による移動利便性向上を行った。	連節バスについては、利用状況に応じて使用するなど、柔軟に運用することで、環境に配慮するとともに安定した輸送の維持ができた。	連節バスの運行による定時性や速達性の確保を行うとともに、移動利便性や輸送効率の向上による公共交通の利用促進を図っていく。	-	連節バスについては、平日や土日祝日の利用状況に応じて柔軟にバスの運用を行い、環境に配慮するとともに、安定した輸送の維持・確保ができた。	A	コロナ禍による利用者減少もあったが、利用状況に応じた柔軟なバス運用により、観光客等への定時性・速達性の確保が実施でき、移動利便性の向上ができた。	今後の利用状況に応じたバス運用を行い、定時性確保とともに、利便性向上を行う。	B	R3.4.1から本格(定期)運行の開始
	鉄道、バス等の公共交通の利用促進	観光誘客課	市内バス事業者を活用した旅行商品の造成を行った。 ・造成した旅行商品数：4種類	-	-	-	-	-	-	令和2年度に、市内バス事業者を活用した旅行商品を造成したが、コロナ禍で利用が少なく、一年で終了。	鉄道、バス等の公共交通の利用促進が増える取組を検討、実施していきたい。	C	

施策	主な取組	担当課	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績			第3期環境基本計画の中間年における総括				
			取組実績	取組実績	取組実績	取組内容	事業名	取組実績	評価	取組の総括 (成果、課題等)	今後の方向性	中間年 総括評価	備考
		交通政策課	おかげバス環状線などの運行や環状線での既存の鉄道・路線バスとの「乗継割引」の実施により、公共交通の利用促進を実施した。 【R2年度 利用者数】 ・おかげバス 56,109人 ・おかげバス環状線 42,264人 ・おかげバスデマンド（沼木デマンドを含む） 3,325人	おかげバス環状線などの運行や環状線での既存の鉄道・路線バスとの「乗継割引」の実施、交通系ICカードシステムの導入による利便性向上を図り、公共交通の利用促進を行った。 【R3年度 利用者数】 おかげバス（環状線除く）55,616人 おかげバス環状線 45,294人 おかげバスデマンド（沼木デマンド含む）3,182人 【R4年3月 おかげバスの運賃収入に占めるICカード利用割合】 27.8%	おかげバス環状線などの運行や環状線での既存の鉄道・路線バスとの「乗継割引」の実施により、公共交通の利用促進を実施した。 【実績】 ・おかげバス（環状線除く）60,239人（前年度比108.3%） ・おかげバス環状線 52,511人（前年度比115.9%） ・おかげバスデマンド（沼木デマンドを含む）3,471人（前年度比109.1%） ・乗継割引券利用者 R3年度比118.3% ・R5年3月時点 おかげバスの運賃収入に占めるICカード利用割合31.2%	おかげバス環状線での既存の鉄道・路線バスとの「乗継割引」を実施してほかに、交通系ICカードの利用による運賃割引を実施し、利用促進を行う。また、感染症の影響で実施できていなかった伊勢まつりなどの啓発を再開することで、より公共交通をアピールする機会を設ける。	コミュニティバス 運行事業	おかげバス環状線などの運行や環状線での既存の鉄道・路線バスとの「乗継割引」の実施により、公共交通の利用促進を実施した。 【実績】 ・おかげバス（環状線除く）62,794人（前年度比 104.2%） ・おかげバス環状線 57,226人（前年度比 109%） ・おかげバスデマンド（沼木デマンドを含む）3,636人（前年度比 104.8%） ・乗継割引券利用者 R4年度比102.2% ・R6年3月時点 おかげバスの運賃収入に占めるICカード利用割合37.0%	A	コロナ禍において公共交通機関の利用者が減少する中で、環状線においては、利用者が増加するなど公共交通の利用促進が実施できた。しかしながら、環状線を除くおかげバスについては、コロナ禍前の利用者数に戻っていないため、引き続き、利用促進に努める。	今後も高齢者をはじめとした利用者が将来も安心し、移動できるように移動手段を確保・維持し、公共交通の利用促進に努める。	A	R3.9.1から交通系ICカードシステムの利用開始
	観光交通渋滞対策の推進	交通政策課	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、初参り交通渋滞対策（パーク&バスライド等）のみ実施した。 【R2年度パーク&バスライド利用車両台数（利用者数）】 ・初参り 6,348台（18,659人）	・自家用自動車への依存度が高くなっており、マイカーからよりCO2排出量の少ない公共交通機関利用へのシフトを促進した。 ・観光交通渋滞対策（パーク&バスライド等）を進め、自動車乗車時間の減少を図り、CO2削減に寄与した。	交通渋滞対策（パーク&バスライド等）を実施した。 【パーク&バスライド利用車両台数（利用者数）】 ・ゴールデンウィーク 5,511台（17,881人） ・初参り 13,809台（43,701人）	CO2削減を目的に自動車乗車時間の減少を図るため、交通渋滞対策（パーク&バスライド・公共交通機関利用促進等）を実施する	観光交通対策事業	交通渋滞対策（パーク&バスライド等）を実施した。 【パーク&バスライド利用車両台数（利用者数）】 ・ゴールデンウィーク 4,483台（14,561人） ・初参り 14,427台（46,548人）	A	コロナ禍が終息し、自動車を利用した観光客はコロナ前の水準にまで戻ってきている状況のなか、パーク&バスライドをはじめとした交通渋滞対策を実施し、自動車乗車時間の低減に取り組んだ。	引き続き、公共交通機関の利用を促すなど、交通渋滞対策に取り組んでいく。	B	
	電気バスの利用促進	交通政策課	-	-	-	おかげバスにおいて小型の電気バス車両の運行を開始する。三重県産の再生可能エネルギー「三重美し国Greenでんき」を使用し、脱炭素社会の実現に向けて取り組む。	コミュニティバス 運行事業	令和5年4月から小型電気バス2台をおかげバスで運行を開始し、環境面への配慮しながら、利用促進を行った。 【CO2削減量 約51t/年】 また、再生可能エネルギーの使用によるCO2排出量の削減を行った。 【CO2削減量 約30t/年】	A	年間を通じて予定どおり運行できた。今後も各地域内を運行することで、CO2排出量削減の取組についてPRを実施する。	今後も事業を継続し、利用者の移動手段の確保や利便性向上を実施しながら、CO2排出量の削減に努める。	B	R5.4.25から小型電気バスの運行開始。
		環境課	三重交通（株）が導入した電気バスを環境教育で利用することにより周知を図る予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした。	三重交通（株）が導入した電気バスを環境教育で利用することにより周知を図る予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした。	三重交通（株）が導入した電気バスを環境教育で利用することにより周知を図った。 【実績】小学校 2校 149人	三重交通（株）が導入した電気バスのイベントPR、環境教育での利用などにより周知を図る。	-	三重交通（株）が導入した電気バスのイベントPRを行い、周知を図った。電気バスの不具合により、環境教育での利用はできなかった。	B	令和5年度に電気バスのイベントPRを行い、周知を図ることができたが、新型コロナウイルス感染症、電気バスの不具合などの影響により、環境教育で利用する機会が少なかったため、電気バスの利用機会を増やし、環境教育で周知を図る必要がある。	三重交通（株）が導入した電気バスを環境教育で利用することにより、引き続き周知を図る。	B	
	自転車を利用しやすい道路、駐輪場等の整備の推進	交通政策課	令和5年3月改定時に取組を新設したため取組実績なし。	令和5年3月改定時に取組を新設したため取組実績なし。	令和5年3月改定時に取組を新設したため取組実績なし。	伊勢志摩地域の8市町（伊勢市、鳥羽市、志摩市、玉城町、度会町、大紀町、南伊勢町、明和町）、学識経験者、事業者等で令和4年7月に立ち上げた「伊勢志摩地域における自転車等活用検討会」において、「伊勢志摩自転車等活用推進計画」案および「伊勢志摩自転車ネットワーク計画」案を作成し、令和5年度中にパブリックコメントを実施、年度末までに計画を策定する。また、駅周辺のシェアサイクルポートの拡充を行う。	-	伊勢志摩地域の8市町において、「伊勢志摩自転車等活用推進計画」および「伊勢志摩自転車ネットワーク計画」を令和6年2月に策定した。また、民間事業者による市内のシェアサイクルポートは令和6年3月末で8箇所となった。	A	「伊勢志摩自転車等活用推進計画」および「伊勢志摩自転車ネットワーク計画」を伊勢志摩地域8市町で策定したことで、今後の取り組みの方向性を示すことができた。また、市内におけるシェアサイクルポートを拡充することができた。	策定した計画に基づく道路環境整備を進めるとともに、シェアサイクルポートのさらなる拡充を図る。	B	計画については、基本目標1-(1)~(2)の再掲
	森林・農地の保全、都市緑化等の推進による吸収源対策	農林水産課	令和5年3月改定時に取組を新設したため取組実績なし。	令和5年3月改定時に取組を新設したため取組実績なし。	令和5年3月改定時に取組を新設したため取組実績なし。	森林管理に向けた調査・間伐を実施する。また農地の有する多面的機能の維持・発揮を図る環境整備への支援を行う。	森林経営管理事業 多面的機能支払交付金事業	経営管理の意向調査を実施した。意向調査：308ha 管理意向のある個所の境界確認を行った。境界確認：150ha 三郷山周辺の間伐を実施した。間伐：13ha 農地保全等で活動する地元組織に対して支援を行った。	A	地域の意向調査を実施し、その結果に基づき境界確認等の方針を決定した。また、集積計画を策定し、間伐を実施した。農地保全等で活動する地元組織に対して支援を行った。	森林管理に向けた調査・間伐を実施する。また農地の有する多面的機能の維持・発揮を図る環境整備への支援を行う。	A	

(2) 気候変動への適応

施策	主な取組	担当課	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績			第3期環境基本計画の中間年における総括				
			取組実績	取組実績	取組実績	取組内容	事業名	取組実績	評価	取組の総括 (成果、課題等)	今後の方向性	中間年 総括評価	備考
①熱中症予防	ホームページ等を活用した熱中症注意情報の提供	健康課	市広報、CATV、ホームページに熱中症予防に関する情報を掲載した。	市広報、CATV、文字放送、デジタルサイネージ、ホームページや機関誌に熱中症予防に関する情報を掲載した。	市広報5月1日号、CATV、ホームページ等により熱中症予防に関する情報提供を行った。暑さが続く時期には公式LINEで2回配信を行った。	市広報、CATV、ホームページ等により熱中症予防に関する情報提供を行う。	-	市広報、CATV、ホームページ、LINE等を活用し熱中症予防に関する情報提供を行った。	A	市広報、CATV、ホームページ、LINE等を活用し熱中症予防に関する情報提供を行うことができた。年々温暖化が進む中早めの予防に取り組めるよう啓発していく必要がある。	市広報、CATV、ホームページ、LINE等を活用し熱中症予防に関する情報提供を行う。	A	
	熱中症の症状や応急手当、予防方法等の周知・啓発	健康課	市広報、ホームページによる啓発や各課へ情報発信を行うとともに、健康課の窓口やOB会、幼児健診等にてチラシを配布した。	市広報、ホームページによる啓発や各課へ情報発信を行った。また、健康課の窓口やOB会、幼児健診等にてチラシを配布した。	市広報5月1日号、ホームページによる啓発や各課へ情報発信を行った。また、健康課の窓口やOB会等講座の参加者に予防方法を周知した。	市広報、ホームページや各種事業において熱中症予防の啓発と情報発信を行う。また、関係機関と情報共有を行い、各課が取り組む熱中症対策の強化を図る。	-	市広報、ホームページや各種事業において熱中症予防の啓発と情報発信を行った。また、各関係機関で情報共有を行い熱中症対策に取り組むことができた。	A	市広報、ホームページや各種事業において熱中症予防の啓発と情報発信を行った。また、各関係機関で情報共有を行い熱中症対策に取り組むことができた。	市広報、ホームページや各種事業において熱中症予防の啓発と情報発信を行う。また、関係機関と情報共有を行い、各課が取り組む熱中症対策の強化を図る。	A	

施策	主な取組	担当課	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績			第3期環境基本計画の中間年における総括				
			取組実績	取組実績	取組実績	取組内容	事業名	取組実績	評価	取組の総括 (成果、課題等)	今後の方向性	中間年 総括評価	備考
②浸水対策の推進	市街地の雨水を速やかに流下させ、また、低地の浸水対策や高潮時の安全を確保するための排水施設の整備	基盤整備課	排水路の改良やポンプ場の整備を行うことにより、浸水被害の軽減・防止を図った。 ポンプ場整備 N=1箇所 排水路改良 L=102m	排水路の改良整備を行うことにより、浸水被害の軽減・防止を図った。 排水路改良 L=591m	排水路の改良整備を行うことにより、浸水被害の軽減・防止を図った。 排水路改良【実績】L=180m	河川や排水路の改良により浸水被害の軽減・防止を図っていく。 排水路改良【目標】L=470m	排水施設整備事業	排水路の改良整備を行うことにより、浸水被害の軽減・防止を図った。 排水路改良【実績】L=384m	B	浸水被害の軽減・防止を目的とし、排水路の改良やポンプ場の整備を順調に進めることができた。	引き続き、浸水被害の軽減・防止を図るため、排水路の改良を実施していく。	A	
		維持課	老朽化した道路側溝の改良や排水処理のための側溝新設を行った。 施工延長 L=4,386m	老朽化した道路側溝の改良や排水処理のための側溝新設を行った。 施工延長 L=4,262m	老朽化した道路側溝の改良や排水処理のための側溝新設を行った。 施工延長 L=3,001m	老朽化した道路側溝の改良や排水処理のための側溝新設を行う。	道路側溝等改良事業	老朽化した道路側溝の改良や排水処理のための側溝新設を行った。 施工延長 L=3,387m	A	施設の老朽化が進んでおり、継続して事業を進めていくことが重要である。	老朽化した道路側溝の改良や排水処理のための側溝新設を行う。	A	
		農林水産課	-	排水機場運転支援システム導入調査業務委託を実施。	事業計画書作成業務委託を実施した。	国庫補助事業の採択に向けて、三重県と調整を進める。	排水機維持管理経費（機能更新）	国庫補助事業の採択に向けて、三重県と調整を行い、事業スケジュールを整理した。	A	排水機場の遠隔操作化に向け、導入調査を行った上で、国庫補助事業として実施するため事業スケジュールを整理した。	事業については、県営事業として実施するため、三重県と整備内容や進捗について共有しながら進める。また導入後の使用・操作方法等について地元操作人と調整を行う。	A	
	河川への雨水流出を少なくするための流出抑制対策の促進	維持課	排水機能及び水質が良好な状態に保てるよう調整池等の維持管理を行った。	排水機能及び水質が良好な状態に保てるよう調整池等の維持管理を行った。	排水機能及び水質が良好な状態に保てるよう調整池等の維持管理を行った。 【実績】調整池 39か所	排水機能及び水質が良好な状態に保てるよう調整池等の維持管理を行う。	排水路維持管理経費	排水機能及び水質が良好な状態に保てるよう調整池等の維持管理を行った。 【実績】調整池 39か所	A	排水機能及び水質が良好な状態に保てるよう調整池等の維持管理を行っていく。	排水機能及び水質が良好な状態に保てるよう調整池等の維持管理を行う。	A	
	都市ポンプ場等の長寿命化	農林水産課	船倉排水機場の保全工事を実施。東大淀排水機場及び亀池排水機場の事業計画を作成。	・亀池排水機場の事業計画書を修正。 ・県営事業にて、新田排水機場の保全工事及びそれに伴う業務委託を実施。（令和4年度へ繰越）	県営事業にて新田排水機場（その1）保全工事、西排水機場及び通排水機場の詳細設計業務を実施した。	県営事業にて新田排水機場（その2）保全工事、西排水機場の保全工事を実施する。	排水機維持管理経費（機能更新）	県営事業として新田排水機場（その2）保全工事、西排水機場保全工事を実施し、施設の長寿命化が完了した。 また、亀池、東大淀、通、楠部、楠部第二、三津排水機場の長寿命化のため、事業計画修正や設計・工事を実施した。	A	長寿命化計画に基づき、順次整備を進めており、3機場において完成した。長寿命化にあたっては、巨額の費用がかかるため、国庫補助事業や緊自債などを有効に活用し、市負担を極力抑制する必要がある。	長寿命化計画に基づき引き続き事業を進める。県営事業として実施するため、三重県と整備内容や進捗について共有しながら進める。	A	
		維持課	予防保全の考え方で機能更新を行うことにより効率的かつ効果的な維持管理を行った。	予防保全の考え方で機能更新を行うことにより効率的かつ効果的な維持管理を行った。	予防保全の考え方で機能更新を行うことにより効率的かつ効果的な維持管理を行った。 【実績】5機場	予防保全の考え方で機能更新を行うことにより効率的かつ効果的な維持管理を行う。	排水機場維持管理経費（ポンプ場機能更新）	予防保全の考え方で機能更新を行うことにより効率的かつ効果的な維持管理を行った。 【実績】6機場	A	計画的な維持管理を行うために、事後保全方式から予防保全方式に切り替え、地域の治水に対する安全性、信頼性を確保している。今後も補修計画に基づき事業を進めていく。	予防保全の考え方で機能更新を進めることで、より効率的かつ効果的な維持管理を行う。	A	
	下水道施設管理課	吹上ポンプ場ほか3施設の更新対象設備の機能更新を行った。また、次期更新設備の設計を行った。	ストックマネジメント計画に基づき、老朽化した施設更新工事を実施した。（3箇所）	ストックマネジメント計画に基づき、老朽化した施設更新を実施した。 【実績】 ・雨水ポンプ場2機場 ・汚水マンホールポンプ場3機場	ストックマネジメント計画に基づき、老朽化した施設更新を実施し、適正な維持管理を行っていく。	ポンプ場更新事業（補助）	ストックマネジメント計画に基づき、老朽化した施設の改築更新を実施した。 【実績】 ・雨水ポンプ場更新3機場 ・雨水幹線改築1箇所 ・汚水マンホールポンプ場2機場	B	ストックマネジメント計画に基づき、膨大な下水道施設の状況を客観的に把握、評価し、長期的な施設の状態を予測しながら、計画的かつ効率的に実施することができた。	今後も引き続き、ストックマネジメント計画に基づき、膨大な下水道施設に対し、計画的かつ効果的な維持管理を図っていくとともに、老朽化した施設の改築更新を進めていく。	B		
③災害時の避難施設等の整備	災害用トイレやスロープ等の整備等、避難生活施設等の環境整備	防災施設整備課	・マンホールトイレの整備 6箇所 ・屋内運動場トイレ改修（バリアフリー化） 3箇所 ・マンホールトイレ用備蓄物資購入	・災害用マンホールトイレの整備：8箇所 ・屋内運動場トイレ改修（バリアフリー化）：7箇所 ・マンホールトイレ用備蓄物資購入	・災害用マンホールトイレの整備：4箇所 ・屋内運動場トイレ改修（バリアフリー化）：1箇所 ・マンホールトイレ用備蓄物資購入	・地域の防災訓練の中で、災害用マンホールトイレの設置訓練を組み込むことを依頼し、利用方法を含めた周知を図る。	-	・9施設で延べ11回の訓練等を行い、多くの参加者に組立体験などを通じて災害用トイレの啓発を行った。 また、一般用トイレの組立動画を作成し、YouTubeへもアップロードを行った。	B	令和元年度から災害用トイレの整備に着手し、令和4年度までに全20箇所が完成した。 整備後は、周辺地域のまちづくり協議会などへ周知を行い、地域の防災訓練などに合わせて啓発活動を行った。	継続的に組み立て訓練を実施し、災害時に避難者が自ら設置から運営までを実施できるような体制づくりに努める。 また、効率的に啓発を実施するため、組立や運営が容易にイメージできるような動画の充実を図っていく。	B	
	備蓄計画の見直し及び防災備蓄倉庫の整備	防災施設整備課	・県広域拠点の共同利用の検証 ・支援物資受入拠点の機能検証 ・必要備蓄量の検証	・既存備蓄倉庫の機能検証 ・備蓄倉庫の不足解消策の検討 ・支援物資調達・供給体制の検討 ・備蓄計画の更新案の作成	・伊勢市備蓄計画の改定を実施した。 ・防災備蓄倉庫及び災害時物資拠点が災害時に円滑に使用できるよう、施設整備の検討・調整を進めた。	・伊勢市備蓄計画を基に備蓄物資等を計画的に調達していく。 ・防災備蓄倉庫及び災害時物資拠点が災害時に円滑に使用できるよう、施設整備を進めていく。	備蓄物資整備事業 備蓄倉庫等整備事業	・年度ごとの物資購入計画を作成し、計画通りに履行した。 ・災害時物資拠点への非常用電源対策については、計画通り実施したが、防災備蓄倉庫の設計業務は関連する事業の進捗により翌年度に見送った。	C	・備蓄物資の購入については、品目の更新時期に考慮した整備計画を作成し、必要品目の購入を行った。 ・防災倉庫の整備については、市民や観光客などの帰宅困難者に必要な物資を届けるため、先進事例なども参考に利便性の高い防災備蓄倉庫の整備を継続する。	能登半島地震の総括を行い、課題となったことに対してどのような対策が実施できるのかを検討し、必要に応じて備蓄品の品目及び数量の見直しや新たな防災備蓄倉庫の設計に取り入れるなど、災害時に物資を迅速かつ確実に物資を届けられる体制づくりを行っていく。	B	

第3期伊勢市環境基本計画 施策推進確認及び中間年における総括評価シート

基本目標2 資源を大切に作る循環型社会の構築

評価: A:実施できた
B:概ね実施できた
C:ほとんど実施できなかった
D:実施していない

中間年総括評価: A:順調に進んだ
B:進んだ
C:進まなかった

(1) 3Rの推進

施策	主な取組	担当課	令和2年度実績			令和3年度実績			令和4年度実績			令和5年度実績			第3期環境基本計画の中間年における総括			
			取組実績	取組実績	取組実績	取組内容	事業名	取組実績	評価	取組の総括 (成果、課題等)	今後の方向性	中間年 総括評価	備考					
①発生抑制 (リデュース)の推進	ごみを出さないライフスタイルの転換の検討	ごみ減量課	出前講座として、3Rに関する講座の開催を行った。	コロナ禍の影響で、出前講座(自治会、老人会)が開催できなかった。	希望する団体を対象に伊勢市のごみの現状及びごみの分け方・出し方について、説明会を実施した。 【実績】 ・説明会開催回数 延べ17回 ・参加人員 延べ169人	自治会等の依頼に応じてごみの減量に関する講座の開催を行う。	MOTTAINAI推進事業	希望する団体を対象に伊勢市のごみの分別や減量などについて、出前講座を実施した。 【実績】 ・講座開催回数 延べ23回 ・参加人員 延べ374人	A	コロナ禍の影響で実施できなかった年度もあるが、希望する自治会等に伊勢市のごみ分別や減量などの出前講座を実施した。特に外国人の団体からの希望が多く、ごみの分別啓発ができたが、自治会からの希望は少なかつたため、出前講座を実施していることを周知する必要がある。	引き続き出前講座を実施していくとともに、より多く出前講座を実施するため、出前講座自体を自治会等に周知していく。	B						
	「食品ロス」削減に関する広報活動の推進	ごみ減量課	・減らそに!いせの食品ロス協議会において、「すぐ食べるならつれてって!キャンペーン」を行い、食料品スーパーから出る食品ロスの削減に取り組んだ。(応募総数2,846通) ・家庭から出る食品ロスを減らすため、冷蔵庫整理術小冊子を制作し、上記キャンペーンと合わせて配布した。また冷蔵庫整理術に関する動画を制作し、Youtubeで配信した。 ・宇治山田商業高等学校と協働して食品ロスの削減に取り組んだ。	・食品ロス削減をテーマに小中学生を対象としたMOTTAINAI(もったいない)ポスターコンクールを実施した。 ・市民の食品ロス削減意識を向上するため、10月1日~31日の間、市内のスーパー事業者と「2021すぐ食べるならつれてって!キャンペーン」を実施した。また、キャンペーンにおいて、食品ロスの啓発および食品ロスダイアリーアプリに関する小冊子を配布した。 ・伊勢市社会福祉協議会とファミリーマートと共同で「ファミマフードドライブ」を実施した。 【R3実績】 ・ポスターコンクール応募数 422点 ・食ロスキャンペーン応募数 2,352通	・食品ロス削減をテーマに小中学生を対象としたMOTTAINAI(もったいない)ポスターコンクールを実施した。 ・市民の食品ロス削減意識を向上するため、10月1日~31日の間、市内のスーパー事業者と「2022すぐ食べるならつれてって!キャンペーン」を実施し、また、2月1日から賞味・消費期限が近い食品や商品をWEB上に掲載し、市民(ユーザー)とのマッチングを行う食品ロス削減マッチングサービス「もったいないやん!!~いせ×タバスケ~」を開始した。 ・伊勢市社会福祉協議会とファミリーマートと共同で「ファミマフードドライブ」を実施した。 【実績】 ・ポスターコンクール応募数 397点 ・食ロスキャンペーン応募数 1,524通 ・タバスケ食品ロス削減量 7,340g ・フードドライブ回収量 651kg	・食品ロス削減をテーマに小中学生を対象としたMOTTAINAI(もったいない)ポスターコンクールを実施した。 ・市民の食品ロス削減意識を向上するため、10月1日~31日の間、市内のスーパー事業者と「2023すぐ食べるならつれてって!キャンペーン」の実施および「もったいないやん!!~いせ×タバスケ~」の利用者拡大を図る。 ・伊勢市社会福祉協議会とファミリーマートと共同で「ファミマフードドライブ」を実施した。	MOTTAINAI推進事業	・食品ロス削減をテーマに小中学生を対象としたMOTTAINAI(もったいない)ポスターコンクールを実施した。 ・市民の食品ロス削減意識を向上するため、10月1日~31日の間、市内のスーパー事業者と「2023すぐ食べるならつれてって!キャンペーン」の実施および「もったいないやん!!~いせ×タバスケ~」の利用者拡大を図る。 ・伊勢市社会福祉協議会とファミリーマートと共同で「ファミマフードドライブ」を実施した。 【実績】 ・ポスターコンクール応募数 394点 ・食ロスキャンペーン応募数 1,962通 ・タバスケ食品ロス削減量 23,230g ・フードドライブ回収量 278kg	A	食品ロス削減に関して、MOTTAINAI(もったいない)ポスターコンクール、「すぐ食べるならつれてって!」キャンペーン、「もったいないやん!!いせ×タバスケ」、「ファミマフードドライブ」を事業展開したところ、市民や小中学生の参加が多くあり、食品ロス削減を考えるきっかけづくりや意識向上を図るとともに、食品ロスの削減につながった。事業によっては、認知度の低い取り組みもあることから、広く市民に事業の周知を行っていく必要がある。	引き続き事業を実施していく。食品ロス削減マッチングサービス「もったいないやん!!いせ×タバスケ」については、利用が少ないことから、利用事業者を増やすよう事業者に働きかけるとともに、市民への周知を行う。また、各事業について、広く市民に周知するため、SNSなどを活用し、情報発信していく。	A						
	廃棄食品の飼料化、フードバンク等の食品ループの構築等の検討	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				
②再使用(リユース)の推進	プラスチックごみの排出抑制のためのマイバッグ、マイボトル等の取組推進	ごみ減量課	マイボトル・マイカップ持参推進に取り組むための諸調査・検討を行った。	マイボトル・マイカップ運動を推進するための仕組みを構築した。また、マイボトル・マイカップ使用に申し込みに市庁内にアンケート調査を実施した。 (R3実績:庁内アンケート実施991人)	マイボトル・マイカップ運動を推進するため、協力店等の登録を行った。 【実績】 ・マイボトル協力店 3店舗 ・マイボトル推進事業者 4事業所	マイボトル協力店や推進事業者の募集や、マイボトル・マイバッグ・マイバック使用促進について市民等へ周知啓発を行う。	MOTTAINAI推進事業	マイボトル協力店や推進事業者の募集を行い、協力店等の登録を行った。 【実績】 ・マイボトル協力店 3店舗 ・マイボトル推進事業者 7事業所	A	マイボトル・マイカップの利用促進に協力いただくマイボトル協力店・マイボトル推進事業者の募集を行い、登録し、マイボトル・マイカップ運動の推進を図った。協力店舗数、事業所数が少ないことから、各事業者に働きかける必要がある。	マイボトル・マイカップ運動を推進するため、企業への協力要請及び市民への周知を進めていく。	B						
	リサイクルショップ、フリーマーケット、バザー等の利用促進	ごみ減量課	-	-	-	環境フェアにてフリーマーケットを実施する。	-	環境フェアにてフリーマーケットを実施した。 【実績】 出店者数36ブース	A	コロナ禍の影響でイベントを自粛する傾向にあり、フリーマーケットの開催は令和5年度のみであった。フリーマーケットを開催する以外の利用促進方法を検討する必要がある。	市内にあるリサイクルショップの周知などフリーマーケットを開催する以外の利用促進方法を検討していく。	B						
③再生利用(リサイクル)の推進	ぐりんくん制度(未使用に近い状態の粗大ごみ等について、排出者の承諾を得た上で希望者へ無償提供を行う制度)の拡充	ごみ減量課	「ドライブスルーdeぐりんくん」として、屋外でリユース家具を展示し、希望者に無償提供を行った。 (R3実績:参加者 70名、提供数 51点)	「ドライブスルーdeぐりんくん」として、屋外でリユース家具を展示し、希望者に無償提供を行った。 (R3実績:参加者 70名、提供数 51点)	環境フェアにおいて、リユース品抽選会を実施し、応募者にリユース品の提供を行った。 【実績】 ・応募数 75人、提供数 11点	ぐりんくん制度で得たリユース品を環境フェアにおいて、抽選等により提供を行う。	MOTTAINAI推進事業	環境フェアにおいて、リユース品抽選会を実施し、応募者にリユース品の提供を行った。 【実績】 ・応募数 203人、提供数 19点	A	ぐりんくん制度により希望者にリユース品の無料提供を行い、リユースの推進をつなげた。無償提供の機会がイベントだけであるため、イベント以外でもリユース品の無償提供ができないかを検討する必要がある。	引き続き事業を実施していく。イベント以外でもリユース品の無償提供できないか検討していく。	A						
	生ごみ処理機を利用した生ごみの堆肥化、減量化の支援	ごみ減量課	生ごみの減量化のため、生ごみ処理機の購入に要する経費の一部を助成した。 交付件数 100件(家庭用) ※家庭用:補助率1/2 3万円上限 ※事業所用:補助率1/2 200万円上限	生ごみの減量化のため、生ごみ処理機の購入に要する経費の一部を助成した。 ※家庭用:補助率1/2 3万円上限(本体価格2,000円以上を対象) ・処理機 ・処理容器 ※事業所用:補助率1/2 300万円上限 【R3実績】 ・家庭用 62基 1,144,000円 ・事業用 1基 3,000,000円	生ごみの減量化のため、生ごみ処理機の購入に要する経費の一部を助成した。 ※家庭用:補助率1/2 3万円上限(本体価格2,000円以上を対象) ・処理機、処理容器 ※事業所用:補助率1/2 300万円上限 【実績】 ・家庭用 61基 1,126,000円 ・事業用 なし	生ごみの減量化のため、生ごみ処理機の購入に要する経費の一部を助成する。より周知が図れる方法を検討する。 ※家庭用:補助率1/2 3万円上限(本体価格2,000円以上を対象) ・処理機、処理容器 ※事業所用:補助率1/2 300万円上限	ごみ減量化容器設置補助金	生ごみの減量化のため、生ごみ処理機の購入に要する経費の一部を補助した。また、制度を周知するため、イベントにて生ごみ処理機の展示や家電量販店へ周知チラシを配架するよう依頼した。 ※家庭用:補助率1/2 3万円上限(本体価格2,000円以上を対象) ・処理機、処理容器 ※事業所用:補助率1/2 300万円上限 【実績】 ・家庭用 85基 1,688,000円 ・事業用 なし	A	補助金交付件数が年間60~100件あり、生ごみの減量化につながった。より多くの方に補助金制度を利用してもらい、生ごみの減量化に取り組んでもらうよう補助金制度や生ごみ処理機の周知に取り組む必要がある。	引き続き補助金制度を実施していくとともに、補助金制度の周知や生ごみ処理機自体の啓発を実施し、生ごみの減量化につなげていく。	A						

施策	主な取組	担当課	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績			第3期環境基本計画の中間年における総括				
			取組実績	取組実績	取組実績	取組内容	事業名	取組実績	評価	取組の総括 (成果、課題等)	今後の方向性	中間年 総括評価	備考
	雑がみの分別や雑がみ回収袋の作成方法、雑がみ回収によるメリット等の啓発	ごみ減量課	・古紙再生工場であるCOREX信栄(株)に事業系の雑がみ(禁忌品を含む)を運搬し、重量に応じたトイレ紙を学校等の公共施設に寄贈する「トイレの紙さま」プロジェクトに取り組んだ。 【実績】15,120kg ・伊勢市HPやSNSを通じて雑がみ分別の啓発を行った。	・市内の小学4年生を対象に、夏休みの期間に家庭で雑がみを分別する「雑がみチャレンジ」を実施し、雑がみの分別習慣化を図った。 ・引き続き事業系の雑がみ(禁忌品を含む)を資源化し、重量に応じたトイレ紙と交換し公共施設に寄贈する「トイレの紙さま」プロジェクトの推進に取り組んだ。 ・伊勢市HPやSNSを通じて雑がみ分別の啓発を行った。 【R3実績】 ・雑がみチャレンジ!参加校 13校、590人参加、回収量 1,675kg ・トイレの紙さま 回収量 26,296kg	・市内の小学4年生を対象に、夏休みの期間に家庭で雑がみを分別する「雑がみチャレンジ」を実施し、雑がみの分別習慣化を図った。 【実績】12校 536人、回収量 1,506kg ・事業系の雑がみ(禁忌品を含む)を資源化し、重量に応じたトイレ紙と交換し公共施設に寄贈する「トイレの紙さま」プロジェクトの推進に取り組んだ。 【実績】34,153kg	・市内の小学校4年生を対象に、夏休みの期間に家庭で雑がみを分別する「雑がみチャレンジ」を実施し、雑がみの分別習慣化を図った。 ・事業系の雑がみ(禁忌品を含む)を資源化し、重量に応じたトイレ紙と交換し公共施設に寄贈する「トイレの紙さま」プロジェクトの推進に取り組む。 伊勢市HPやSNSを通じて雑がみ分別の啓発を行う。	MOTTAINAI推進事業	・市内の小学4年生を対象に、夏休みの期間に家庭で雑がみを分別する「雑がみチャレンジ」を実施し、雑がみの分別習慣化を図った。 【実績】11校 459人、回収量 1,453kg ・事業系の雑がみ(禁忌品を含む)を資源化し、重量に応じたトイレ紙と交換し公共施設に寄贈する「トイレの紙さま」プロジェクトの推進に取り組んだ。 【実績】36,342kg ・SNSを通じて雑がみ分別の啓発を行った。	A	「雑がみチャレンジ」により小学4年生を対象に家庭での雑がみを分別する機会を創出したことで、雑がみの分別習慣化の一助になった。市内すべての学校に参加いただけよう学校に働きかけをする必要がある。 事業者「トイレの紙さま」プロジェクトに参加いただき、事業系の雑がみを年間26t~36tの資源化することができた。	「雑がみチャレンジ」を引き続き小学4年生を対象に実施していく。今後はより多くの小学校に参加いただくよう働きかけをしていく。 「トイレの紙さま」プロジェクトも引き続き実施していく。新たな事業者に参加いただくため、企業訪問などを実施し、取り組みを進めていく。 雑がみの分別や回収によるメリット等を啓発するため、SNSや伊勢市のHPなどを通じて情報発信をしていく。	A	
	自治会等による集団回収の促進	ごみ減量課	ごみの減量・資源化、市民の意識向上のため、自治会や子供会などの団体が行う廃品回収に対し、回収した資源の量に応じた奨励金を交付した。 (R3実績 133 交付団体数 133)	ごみの減量・資源化、市民の意識向上のため、自治会や子供会などの団体が行う廃品回収に対し、回収した資源の量に応じた奨励金を交付した。 (R3実績 127団体、3,538,630円)	ごみの減量・資源化、市民の意識向上のため、自治会や子供会などの団体が行う廃品回収に対し、回収した資源の量に応じた奨励金を交付した。 【実績】129団体、3,512,040円	ごみの減量・資源化、市民の意識向上のため、自治会や子供会などの団体が行う廃品回収に対し、回収した資源の量に応じた奨励金を交付する。	再生資源回収推進事業	ごみの減量・資源化、市民の意識向上のため、自治会や子供会などの団体が行う廃品回収に対し、回収した資源の量に応じた奨励金を交付した。 【実績】125団体、3,190,270円	A	毎年度125~133団体に奨励金を交付したことで、自治会等による集団回収の促進になり、市民のごみの減量・資源化に対する意識向上につながった。 現行制度で運用が長期になってきていることから、そのあり方を検討する必要がある。	再生資源奨励金について、現行制度での運用が長期になってきていることから、そのあり方について、他市の状況を把握しながら検討を行う。	A	

(2) 適正かつ効率的なごみ処理の推進

施策	主な取組	担当課	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績			第3期環境基本計画の中間年における総括				
			取組実績	取組実績	取組実績	取組内容	事業名	取組実績	評価	取組内容	今後の方向性	中間年 総括評価	備考
①分別協力度の向上	指定の分別ができないごみの排出者に対する指導の強化	ごみ減量課	自治会、老人会等からの依頼により、3Rに関する講座の開催を行った。 延べ3回	コロナ禍の影響で、出前講座(自治会、老人会)が開催できなかった。	希望する団体を対象に伊勢市のごみの現状及びごみの分け方・出し方について、説明会を実施した。 【実績】 ・説明会開催回数 延べ17回 ・参加人員 延べ169人	自治会等の依頼に応じてごみの減量に関する講座の開催を行う。	MOTTAINAI推進事業	希望する団体を対象に伊勢市のごみの分別や減量などについて、出前講座を実施した。 【実績】 ・講座開催回数 延べ23回 ・参加人員 延べ374人	A	コロナ禍の影響で実施できなかった年度もあるが、希望する自治会等に伊勢市のごみ分別や減量などの出前講座を実施した。特に外国人の団体からの希望が多く、ごみの分別啓発ができたが、自治会からの希望は少なかったため、出前講座を実施していることを周知する必要がある。	引き続き出前講座を実施していくとともに、より多く出前講座を実施するため、出前講座自体を自治会等に周知していく。	B	基本目標2-(1)-①の再掲
	事業系ごみの搬入検査等による適正排出の推進	ごみ減量課	事業系一般廃棄物について、管外搬入がないかごみ搬入検査を行った。	事業系一般廃棄物について、管外搬入がないかごみ搬入検査を行った。 (R3実績: 48回)	事業系一般廃棄物について、産業廃棄物や管外搬入がないかごみ搬入検査を行った。 【実績】24回	事業系一般廃棄物について、産業廃棄物や管外搬入がないか、ごみの搬入検査を月2回行う。	ごみ減量・資源化事業一般経費	事業系一般廃棄物について、産業廃棄物や管外搬入がないかごみ搬入検査を行った。 【実績: 24回】	A	事業系一般廃棄物について、産業廃棄物や管外搬入がないかごみ搬入検査を実施し、産業廃棄物が混入されていた場合、搬入業者に引取や指導を行った。その結果、事業系一般廃棄物に混在する産業廃棄物や管外搬入物は減少している。事業系一般廃棄物の適正排出を推進するため、事業者への啓発を行っていく必要がある。	引き続き事業系一般廃棄物について、ごみ搬入検査を行うとともに、排出事業者への事業系一般廃棄物、産業廃棄物の適正排出を啓発していく必要がある。	A	
	ごみの組成調査等による分別実態の把握	ごみ減量課	家庭系燃えるごみの組成調査を実施した。	家庭系燃えるごみの組成調査を実施した。 (R3実績: 令和3年12月2・3日実施)	家庭系燃えるごみの組成調査を実施した。 【実績】1回	家庭系燃えるごみの組成調査を実施する。調査結果をもとに分別の啓発に繋げていく。	-	家庭系燃えるごみの組成調査を実施した。 【実績】1回	A	家庭系燃えるごみの組成調査を実施し、その調査結果をもとに重点的に啓発する分別品目を検討するなど活用した。また、調査結果を減量啓発リーフレットに掲載した。	家庭系燃えるごみの組成調査を引き続き実施するとともに、その調査結果を情報発信し、ごみ減量・資源化の啓発につなげていく。また、令和6年度からプラスチック類の回収を始めたことに伴い、プラスチック類の組成調査の実施も検討する。	A	
②収集方法等の効率化	家庭系ごみ収集における民間委託の拡大	ごみ減量課	旧伊勢市の缶・金属類除く資源物、二見町、小俣町、御園町の燃えるごみ及び資源物の収集運搬業務を民間へ委託した。 令和2年度からは旧伊勢市地区のうち7地区の燃えるごみの収集運搬委託業務を新たに民間へ委託した。	旧伊勢市の燃えるごみの一部地区及び缶・金属類除く資源物、二見町、小俣町、御園町の燃えるごみ及び資源物の収集運搬業務を民間へ委託した。 令和3年度から旧伊勢市地区のうち9地区の燃えるごみの収集運搬委託業務を新たに民間へ委託した。	旧伊勢市の燃えるごみ及び缶・金属類除く資源物、二見町、小俣町、御園町の燃えるごみ及び資源物の収集運搬業務を民間へ委託した。	すでに民間へ収集運搬業務を委託している家庭系ごみは引き続き委託するとともに、直営で収集運搬している旧伊勢市地区の缶・金属類について、民間への委託を検討する。	再資源分別回収事業	旧伊勢市の燃えるごみ及び缶・金属類除く資源物、二見町、小俣町、御園町の燃えるごみ及び資源物の収集運搬業務を民間へ委託した。 令和6年度から旧伊勢市地区の缶・金属類の収集運搬委託業務を新たに民間へ委託するよう民間事業者と契約締結した。	A	旧伊勢市地区の燃えるごみ、缶・金属類の収集運搬業務を新たに民間へ委託した。それにより主な家庭系ごみの収集運搬業務を民間に委託し、収集運搬経費の削減を図った。	すでに民間へ収集運搬業務を委託している家庭系ごみについて、引き続き委託していく。	A	
	燃えるごみ集積所設備の設置、修繕の支援	ごみ減量課	燃えるごみ集積所設置に対する補助金を交付した。 交付件数 14件	燃えるごみ集積所設置補助金。 (R3実績: 29件、9,322,250円)	自治会からの申請に対し利用世帯数に応じた補助金を交付した。 【実績】15件、5,817,928円	燃えるごみ集積所の設置、修繕の支援のため補助金を交付する。	廃棄物集積所設置補助金	自治会からの申請に対し利用世帯数に応じた補助金を交付した。 【実績: 16件、6,168,583円】	A	補助金開始から10年を経過し、集積所の老朽化が進んでおり、集約化による更新件数が増加している。現行制度で運用が長期になってきていることから、そのあり方を検討する必要がある。	ごみの適正処理に重要なことから引き続き実施するが、現行制度で運用が長期になってきていることから、そのあり方を検討する。	A	

施策	主な取組	担当課	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績			第3期環境基本計画の中間年における総括				
			取組実績	取組実績	取組実績	取組内容	事業名	取組実績	評価	取組の総括 (成果、課題等)	今後の方向性	中間年 総括評価	備考
③適正処理の推進	中間・最終処理施設の適正管理・運転	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中間処理施設の次期更新に向けた対応	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(3) ごみに関する啓発・協働の推進

施策	主な取組	担当課	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績			第3期環境基本計画の中間年における総括				
			取組実績	取組実績	取組実績	取組内容	事業名	取組実績	評価	取組の総括 (成果、課題等)	今後の方向性	中間年 総括評価	備考
①ごみに関する教育、学習、啓発の充実	学校等における環境教育の充実	ごみ減量課	小学校向けの出前授業については、新型コロナウイルス感染拡大予防により、パッカー車による収集の様子を屋外から見学する方法や、資料提供のみを行う方法などを実施した。	小学校の社会学習として、ごみの分別・3Rの推進の説明やパッカー車による収集の体験等を行う出前授業を実施した。 【実績】11校、延べ519人参加	小学校の社会学習として、ごみの減量に関する講座やパッカー車による収集の体験等を行う出前授業を実施した。	MOTTAINAI推進事業	小学校の社会学習として、ごみの減量に関する講座やパッカー車による収集の体験等を行う出前授業を実施した。 【実績】12校、延べ463人参加	A	小学生へごみや資源物の分別方法を周知し、分別意識の向上を図ることができた。希望する小学校が増えてきているが、市内すべての学校で実施できるよう学校に働きかけをする必要がある。	引き続きごみの分別や減量に関する出前授業を実施するとともに、市内すべての学校で実施できるよう学校に働きかけをする必要がある。	A		
	出前講座等による学習機会の提供	ごみ減量課	・自治会、老人会等からの依頼により、3Rに関する講座の開催を行った。(延べ3回) ・LINEの伊勢市公式アカウントでごみの分別のAIチャットボットを導入した。	コロナ禍の影響で、出前講座(自治会、老人会)が開催できなかった。	希望する団体を対象に伊勢市のごみの現状及びごみの分け方・出し方について、説明会を実施した。 【実績】 ・説明会開催回数 延べ17回 ・参加人員 延べ169人	MOTTAINAI推進事業	希望する団体を対象に伊勢市のごみの分別や減量などについて、出前講座を実施した。 【実績】 ・講座開催回数 延べ23回 ・参加人員 延べ374人	A	コロナ禍の影響で実施できなかった年度もあるが、希望する自治会等に伊勢市のごみ分別や減量などの出前講座を実施した。特に外国人の団体からの希望が多く、ごみの分別啓発ができたが、自治会からの希望は少なかったため、出前講座を実施していることを周知する必要がある。	引き続き出前講座を実施していくとともに、より多く出前講座を実施するため、出前講座自体を自治会等に周知していく。	B	基本目標2-(1)-①の再掲	
	地域での説明会、ごみカレンダー等による啓発	ごみ減量課	・減らそに！いせの食品ロス協議会において、「すぐ食べるならつれてって！キャンペーン」を行い、食品ロスから出る食品ロスの削減に取り組んだ。(応募総数2,846通) ・宇治山田商業高等学校と協働して食品ロスの削減に取り組んだ。	・宇治山田商業高等学校と協働して食品ロスの削減に取り組んだ。 ・ごみカレンダーを全戸配布し、ごみ分別の習慣化を促進した。 【R3実績】 ・ごみカレンダー : 22地区、65,000部配布	・自治会、老人会等からの依頼により、3Rに関する講座の開催を行った。 【実績】 ・説明会開催回数 延べ17回 ・参加人員 延べ169人 ・プラスチック製品の分別の説明会を8自治会で行った。 ・宇治山田商業高等学校と協働して食品ロスの削減に取り組んだ。 ・ごみカレンダーを全戸配布し、ごみ分別の習慣化を促進した。 ・伊勢市公式LINEにおいて、AIチャットボット機能を利用し、ごみの品名ごとに分別方法などを自動で回答するサービスを提供した。 【実績】 ・登録数 21,412人 ・利用件数 22,327件	・全自治会へ説明会を実施する。 ・宇治山田商業高等学校と協働して食品ロスの削減に取り組む ・ごみカレンダー、ごみ分別ガイドブックを全戸配布し、ごみ分別の習慣化を促進する。 ・伊勢市公式LINEにおいて、AIチャットボット機能を利用し、ごみの品名ごとに分別方法などを自動で回答するサービスを提供する。	MOTTAINAI推進事業	希望する団体を対象に伊勢市のごみの分別や減量などについて、出前講座を実施した。 【実績】 ・講座開催回数 延べ23回 ・参加人員 延べ374人 ・宇治山田商業高等学校と協働して「2023すぐ食べるならつれてって！キャンペーン」などの食品ロスの削減に取り組んだ。 ・ごみカレンダーを全戸配布、伊勢市公式LINEにおいて、AIチャットボット機能を利用し、ごみの品名ごとに分別方法などを自動で回答するサービスを提供した。	A	コロナ禍の影響で実施できなかった年度もあるが、希望する自治会等に伊勢市のごみ分別や減量などの出前講座を実施した。特に外国人の団体からの希望が多く、ごみの分別啓発ができたが、自治会からの希望は少なかったため、出前講座を実施していることを周知する必要がある。宇治山田商業高等学校と協働して、引き続き食品ロスの削減に取り組んでいく。ごみカレンダーの全戸配布、AIチャットボット機能を利用した、ごみの分別方法などの自動回答サービスを引き続き実施するほか、地区別カレンダーでの収集日確認や分別案内、情報通知、多言語対応などの機能を備えたアプリを導入する。	引き続き出前講座を実施していくとともに、より多く出前講座を実施するため、出前講座自体を自治会等に周知していく。宇治山田商業高等学校と協働して、引き続き食品ロスの削減に取り組んでいく。ごみカレンダーの全戸配布、AIチャットボット機能を利用した、ごみの分別方法などの自動回答サービスを引き続き実施するほか、地区別カレンダーでの収集日確認や分別案内、情報通知、多言語対応などの機能を備えたアプリを導入する。	A	講座の開催については基本目標2-(1)-①の再掲
②協働による推進	市民・地域組織、事業者、行政等がお互いに補完しあう体制の構築	ごみ減量課	-	伊勢市社会福祉協議会とファミリーマートと共同で「ファミマフードドライブ」を実施した。	伊勢市社会福祉協議会とファミリーマートと共同で「ファミマフードドライブ」を実施した。 フードドライブ回収量 651kg	伊勢市社会福祉協議会とファミリーマートと共同で「ファミマフードドライブ」を実施する。	MOTTAINAI推進事業	伊勢市社会福祉協議会とファミリーマートと共同で「ファミマフードドライブ」を実施した。 フードドライブ回収量 278kg	A	民間組織、事業者、行政が共同で実施する「ファミマフードドライブ」を事業展開することで、食品ロスの削減につながった。	引き続き事業を実施するとともに広く市民に周知するため、SNSなどを活用し、情報発信していく。	A	基本目標2-(1)-①の再掲
	横のつながりを意識した連携強化	ごみ減量課	-	伊勢市社会福祉協議会とファミリーマートと共同で「ファミマフードドライブ」を実施した。	伊勢市社会福祉協議会とファミリーマートと共同で「ファミマフードドライブ」を実施した。 フードドライブ回収量 651kg	伊勢市社会福祉協議会とファミリーマートと共同で「ファミマフードドライブ」を実施する。	MOTTAINAI推進事業	伊勢市社会福祉協議会とファミリーマートと共同で「ファミマフードドライブ」を実施した。 フードドライブ回収量 278kg	A	民間組織、事業者、行政が共同で実施する「ファミマフードドライブ」を事業展開することで、食品ロスの削減につながった。	引き続き事業を実施するとともに広く市民に周知するため、SNSなどを活用し、情報発信していく。	A	基本目標2-(1)-①の再掲

(4) 水循環の確保

施策	主な取組	担当課	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績			第3期環境基本計画の中間年における総括				
			取組実績	取組実績	取組実績	取組内容	事業名	取組実績	評価	取組の総括 (成果、課題等)	今後の方向性	中間年 総括評価	備考
①治水・利水対策の推進	雨水貯留施設(雨水タンク)の設置支援	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	市街地の雨水を速やかに流下させ、また、低地の浸水対策や高潮時の安全を確保するための排水施設の整備	基盤整備課	排水路の改良やポンプ場の整備を行うことにより、浸水被害の軽減・防止を図った。 ポンプ場整備 N=1箇所 排水路改良 L=102m	排水路の改良整備を行うことにより、浸水被害の軽減・防止を図った。 排水路改良 L=591m	排水路の改良整備を行うことにより、浸水被害の軽減・防止を図った。 排水路改良 【実績】L=180m	河川や排水路の改良により浸水被害の軽減・防止を図っていく。 排水路改良 【目標】L=470m	排水施設整備事業	排水路の改良整備を行うことにより、浸水被害の軽減・防止を図った。 排水路改良 【実績】L=384m	B	浸水被害の軽減・防止を目的とした、排水路の改良やポンプ場の整備を順調に進めることができた。	引き続き、浸水被害の軽減・防止を図るため、排水路の改良を実施していく。	A	基本目標1-(2)-②の再掲
		維持課	老朽化した道路側溝の改良や排水処理のための側溝新設を行った。 施工延長 L=4,386m	老朽化した道路側溝の改良や排水処理のための側溝新設を行った。 施工延長 L=4,262m	老朽化した道路側溝の改良や排水処理のための側溝新設を行った。 施工延長 L=3,001m	老朽化した道路側溝の改良や排水処理のための側溝新設を行う。	道路側溝等改良事業	老朽化した道路側溝の改良や排水処理のための側溝新設を行った。 施工延長 L=3,387m	A	施設の老朽化が進んでおり、継続して事業を進めていくことが重要である。	老朽化した道路側溝の改良や排水処理のための側溝新設を行う。	A	基本目標1-(2)-②の再掲
		農林水産課	-	排水機場運転支援システム導入調査業務委託を実施した。	事業計画書作成業務委託を実施した。	国庫補助事業の採択に向けて、三重県と調整を進める。	排水機維持管理経費(機能更新)	国庫補助事業の採択に向けて、三重県と調整を進めた。	A	排水機場の遠隔操作化に向け、導入調査を行った上で、国庫補助事業として実施するため事業スケジュールを整理した。	事業については、県営事業として実施するため、三重県と整備内容や進捗について共有しながら進める。また導入後の使用・操作方法等について地元操作人と調整を行う。	A	基本目標1-(2)-②の再掲
	河川への雨水流出を少なくするための流出抑制対策の促進	維持課	排水機能及び水質が良好な状態に保てるよう調整池等の維持管理を行った。	排水機能及び水質が良好な状態に保てるよう調整池等の維持管理を行った。	排水機能及び水質が良好な状態に保てるよう調整池等の維持管理を行った。 【実績】調整池 39か所	排水機能及び水質が良好な状態に保てるよう調整池等の維持管理を行う。	排水路維持管理経費	排水機能及び水質が良好な状態に保てるよう調整池等の維持管理を行った。 【実績】調整池 39か所	A	排水機能及び水質が良好な状態に保てるよう調整池等の維持管理を行った。	排水機能及び水質が良好な状態に保てるよう調整池等の維持管理を行う。	A	基本目標1-(2)-②の再掲

施策	主な取組	担当課	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績				第3期環境基本計画の中間年における総括			
			取組実績	取組実績	取組実績	取組内容	事業名	取組実績	評価	取組の総括 (成果、課題等)	今後の方向性	中間年 総括評価	備考
都市ポンプ場等の長寿命化	農林水産課	船舶排水機場の保全工事を実施。東大淀排水機場及び亀池排水機場の事業計画を作成。	・亀池排水機場の事業計画書を修正。 ・県営事業にて、新田排水機場の保全工事及びそれに伴う業務委託を実施。令和4年度へ繰越	県営事業にて新田排水機場（その1）保全工事、西排水機場及び通排水機場の詳細設計業務を実施した。	県営事業にて新田排水機場（その2）保全工事、西排水機場の保全工事を実施する。	排水機維持管理経費（機能更新）	県営事業として新田排水機場（その2）保全工事、西排水機場保全工事を実施し、施設の長寿命化が完了した。 また、亀池、東大淀、通、楠部、楠部第二、三津排水機場の長寿命化のため、事業計画修正や設計・工事を実施した。	A	長寿命化計画に基づき、順次整備等を進めており、3機場において完成した。長寿命化にあたっては、巨額の費用がかかるため、国庫補助事業や緊急自費などを有効に活用し、市負担を極力抑制する必要がある。	長寿命化計画に基づき引き続き事業を進める。県営事業として実施するため、三重県と整備内容や進捗について共有しながら進める。	A	基本目標1-(2)-②の再掲	
		維持課	予防保全の考え方で機能更新を行うことにより効率的かつ効果的な維持管理を行った。	予防保全の考え方で機能更新を行うことにより効率的かつ効果的な維持管理を行った。	予防保全の考え方で機能更新を行うことにより効率的かつ効果的な維持管理を行った。 【実績】5機場	排水機場維持管理経費（ポンプ場機能更新）	予防保全の考え方で機能更新を行うことにより効率的かつ効果的な維持管理を行った。 【実績】6機場	A	計画的な維持管理を行うために、事後保全方式から予防保全方式に切り替え、地域の治水に対する安全性、信頼性を確保している。今後も補修計画に基づき事業を進めていく。	今後も予防保全の考え方で機能更新を行うことにより効率的かつ効果的な維持管理を行う。	A	基本目標1-(2)-②の再掲	
		下水道施設管理課	吹上ポンプ場ほか3施設の更新対象設備の機能更新を行った。また、次期更新設備の設計を行った。	ストックマネジメント計画に基づき、老朽化した施設更新工事を実施した。	ストックマネジメント計画に基づき、老朽化した施設更新を実施した。 【実績】 ・雨水ポンプ場2機場 ・汚水マンホールポンプ場3機場	ストックマネジメント計画に基づく、老朽化した施設更新を実施し、適正な維持管理を行っていく。	ポンプ場更新事業（補助）	ストックマネジメント計画に基づき、老朽化した施設の改築更新を実施した。 【実績】 ・雨水ポンプ場更新3機場 ・雨水幹線改築1箇所 ・汚水マンホールポンプ場2機場	B	ストックマネジメント計画に基づき、膨大な下水道施設の状態を客観的に把握、評価し、長期的な施設の状態を予測しながら、計画的かつ効率的に実施することができた。	今後も引き続き、ストックマネジメント計画に基づき、膨大な下水道施設に対し、計画的かつ効率的な維持管理を図っていくとともに、老朽化した施設の改築更新を進めていく。	B	基本目標1-(2)-②の再掲
②水源対策の推進	水源及び配水場における水質検査の実施	上水道課	年間84件の水質検査を実施した。	年間84件の水質検査を実施した。	年間84件の水質検査を実施した。	安全で安心できる水道水の供給を行うため、水質検査を実施する。	水源地維持管理事業	年間84件の水質検査を実施した。	A	安全で安心できる水道水の供給を行うため、毎年、水質検査を実施した。	今後も継続して水質検査を実施していき、安全で安心できる水道水を供給していく。	A	
	農業を営む上で必要な用水等を確保するための水源確保	農林水産課	国営宮川用水二期事業関連県営事業において、農業用水のバイパス化を図った。	安定した水供給と維持管理の省力化及び生産性向上を図るため、バイパスの更新整備及び給水栓整備を行う国営関連県営事業に対し負担金を支出した。 【実施地区】 宮川4工区、有爾中・明星地区、田丸地区、小俣地区、宮川左岸地区、城田・下外城田地区	パイプラインの更新整備及び給水栓整備を行う国営関連県営事業に対し負担金を支出することにより、安定した水供給と維持管理の省力化及び生産性向上を図った。 【実施地区】 宮川4工区、宮川左岸地区、城田・下外城田地区	パイプラインの更新整備及び給水栓整備を行う国営関連県営事業に対し負担金を支出することにより、安定した水供給と維持管理の省力化及び生産性向上を図る。	県営事業負担金	パイプラインの更新整備及び給水栓整備を行う国営関連県営事業に対し負担金を支出することにより、安定した水供給と維持管理の省力化及び生産性向上を図った。 【実施地区】 宮川左岸地区、城田・下外城田地区	A	パイプラインの更新整備及び給水栓整備を行う国営関連県営事業に対し負担金を支出することにより、安定した水供給と維持管理の省力化及び生産性向上を図った。 【実施地区】 宮川4工区、有爾中・明星地区、田丸地区、小俣地区、宮川左岸地区、城田・下外城田地区	引き続き、パイプラインの更新整備及び給水栓整備を行う国営関連県営事業に対し負担金を支出することにより、安定した水供給と維持管理の省力化及び生産性向上を図る。	A	

第3期伊勢市環境基本計画 施策推進確認及び中間年における総括評価シート

基本目標3 豊かな自然と人が共生する社会の形成

評価： A:実施できた
B:概ね実施できた
C:ほとんど実施できなかった
D:実施していない

中間年総括評価： A:順調に進んだ
B:進んだ
C:進まなかった

(1) 自然環境・公益的機能の保全

施策	主な取組	担当課	令和2年度実績			令和3年度実績			令和4年度実績			令和5年度実績			第3期環境基本計画の中間年における総括			
			取組実績	取組実績	取組実績	取組内容	事業名	取組実績	評価	取組の総括 (成果、課題等)	今後の方向性	中間年 総括評価	備考					
①水環境の保全	市内公共用水域（河川・海域）の水質調査の実施	企画調整課	宮川流域ルネッサンス協議会において、「全国水環境マップ実行委員会」及び「伊勢湾再生推進会議」が実施する水質チェックに参画し、4地点の水質チェックを実施	宮川流域ルネッサンス協議会において、「伊勢湾再生推進会議」が実施する水質チェックに参画し、1地点の水質チェックを実施	-	-	-	-	-	-	-	-	宮川流域ルネッサンス協議会において、「全国水環境マップ実行委員会」及び「伊勢湾再生推進会議」が実施する水質調査に参加していた。令和4年度以降は協議会体制の見直しを行っていたことから、協議会としての参加は見送ることとなった。	宮川流域ルネッサンス協議会については、令和5年度からは協議会体制を変更し、流域7市町と三重県が主体的に取り組みを行っていくこととなった。伊勢市においては、伊勢市環境会議が「全国水環境マップ実行委員会」主催の水質調査に参加していく。	B			
		環境課	河川、幹線排水路、海域の水質汚濁状態を把握するため、水質調査を行った。 河川 調査地点15 回数4~24 幹線排水路 調査地点 7 回数4~5 海域 調査地点1 回数3	河川、幹線排水路、海域の水質汚濁状態を把握するため、水質調査を行った。 ・河川 調査地点23 回数152 ・幹線排水路 調査地点3 回数12 ・海域 調査地点1 回数4	河川、幹線排水路、海域の水質汚濁状態を把握するため、水質調査を行い、生活排水対策の資料にするとともに、ホームページに掲載し、水質保全の意識啓発を行った。 【実績】 ・河川 調査地点13 回数102 ・幹線排水路 調査地点6 回数64 ・海域 調査地点1 回数4	河川・海域の水質調査を行い、水質汚濁状態の把握に努め生活排水対策の資料にするとともに、ホームページに掲載することにより、水質保全の意識啓発を行う。	調査事業	河川、幹線排水路、海域の水質汚濁状態を把握するため、水質調査を行い、生活排水対策の資料にするとともに、ホームページに掲載し、水質保全の意識啓発を行った。 【実績】 ・河川 調査地点13 回数102 ・幹線排水路 調査地点6 回数64 ・海域 調査地点1 回数4	A	河川・海域の水質調査を行い、水質汚濁状態の把握に努め生活排水対策の資料にするとともに、ホームページに掲載することにより、水質保全の意識啓発を行った。	引き続き、河川・海域の水質調査を行い、水質汚濁状態の把握に努め生活排水対策の資料にするとともに、ホームページに掲載することにより、水質保全の意識啓発を行う。	A						
	堤防法面の除草等、河川の良好な維持管理	維持課	河川の良好な維持管理と安全性の確保を図るため堤防法面等の除草及び伐採を行った。	河川の良好な維持管理と安全性の確保を図るため堤防法面等の除草及び伐採を行った。	河川の良好な維持管理と安全性の確保を図るため堤防法面等の除草及び伐採を行った。 【実績】22河川 75,414㎡	河川の良好な維持管理と安全性の確保を図るため堤防法面等の除草及び伐採を行う。	河川維持補修経費	河川の良好な維持管理と安全性の確保を図るため堤防法面等の除草及び伐採を行った。 【実績】22河川 78,045㎡	A	河川の良好な維持管理と安全性の確保を図っている。	引き続き河川の良好な維持管理と安全性の確保を図るため堤防法面等の除草及び伐採を行う。	A						
	流域関連公共下水道事業の整備推進	下水道建設課	下水道整備を進め、下水道処理人口普及率は55.7%（令和元年度）から56.7%に向上した。	下水道事業計画区域内の整備を進め、下水道処理人口普及率を56.7%から58.2%へ向上させた。	下水道事業計画区域内の整備を進め、下水道処理人口普及率を58.2%から60.3%へ向上させた。	下水道事業計画区域内の整備を進め、下水道処理人口普及率の向上を図る。	社会資本交付金事業（補助） 社会資本交付金事業（単独）	下水道事業計画区域内の整備を進め、下水道処理人口普及率を60.3%から61.0%へ向上させた。	B	下水道の未普及解消に向けた整備を進める地域は拡大し、それに合わせて下水道処理人口普及率も上がり、生活環境の改善に繋がった。	引き続き下水道事業計画区域内の整備を進めるため、国の交付金等財源確保に努め、計画的に快適で安全な生活環境の整った地区を拡大していく。	B						
	合併処理浄化槽の普及促進	環境課	合併処理浄化槽設置者に対し補助し、普及に努めた。災害時における補助要件について伊勢市共同汚水処理施設修繕工事補助金交付要綱の見直しを行った。 補助交付件数 170基	合併処理浄化槽の設置に対して補助金を交付した。 交付件数193件 【実績】183件	合併処理浄化槽の設置に対して補助金を交付した。 【実績】183件	年間190件を目指し、合併処理浄化槽の設置に対して補助金を交付する。汲み取り便槽、単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換を進めるようイベント啓発・広報活動に取り組む。	合併処理浄化槽整備事業補助金	合併処理浄化槽の設置に対して補助金を交付した。 【実績】134件	A	国・県の補助事業を活用し、合併処理浄化槽の設置に対して補助金を交付した。また、汲み取り便槽、単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換を進めるようイベント啓発・広報活動に努めるため、補助金を交付した。	引き続き、合併処理浄化槽の設置に対して補助金を交付する。また、汲み取り便槽、単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換を進めるようイベント啓発・広報活動に取り組む。	A						
	エコクッキング教室等の講習会等の開催	環境課	伊勢市環境会議が東邦ガス(株)と連携して親子エコ・クッキングを開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。	東邦ガス(株)が、新型コロナウイルス感染症の影響でエコ・クッキング教室の実施を中止しており、中止とした。	東邦ガス(株)と事業実施を検討していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした。	家庭での生活排水発生源対策について、伊勢市環境会議と連携して検討・実施する。	生活排水対策啓発事業	水環境の保全の施策として伊勢市環境会議と連携しての事業は実施しなかった。※ごみ減量課において、3Rの推進施策として、東邦ガス(株)とエコクッキング教室を2回実施した。	C	新型コロナウイルス感染症の影響で東邦ガス(株)と連携してのエコクッキング教室が実施できなかった。	家庭での生活排水発生源対策について、伊勢市環境会議と連携して検討・実施していく。	C						
	地区漁業者等による干潟保全活動の支援	農林水産課	地元組織により干潟保全活動を行った。	地元組織により干潟保全活動を実施していたが、年度途中で中止した。	-	-	-	-	-	-	地元組織により干潟保全活動を実施し、資源回復を図った。しかし、効果が想定より小さかったことや、会員の高齢化・コロナ禍などから活動を休止した。	地域による干潟保全活動の取組みが行われる場合には、支援を検討する。	C					
観光関係団体等と協力した海岸清掃の実施	観光振興課	年間を通じて二見浦海水浴場施設とその周辺の環境や景観を良好な状態に保つため、定期的に清掃活動を実施した。	5月から3月の期間に二見浦海水浴場施設とその周辺の環境や景観を良好な状態に保つため、定期的に清掃活動を実施した。	6月から3月の期間に二見浦海水浴場施設とその周辺の環境や景観を良好な状態に保つため、定期的に清掃活動を実施した。	年間を通じて二見浦海水浴場施設とその周辺の環境や景観を良好な状態に保つため、定期的に清掃活動を実施するとともに海水浴場開設期間前後に地域が実施する二見浦海岸清掃に協力する。	二見ビーチ活性化事業	6月から3月の期間に二見浦海水浴場施設とその周辺の環境や景観を良好な状態に保つため、定期的に清掃活動の実施するとともに地域が実施する二見浦海岸清掃に協力した。	B	令和5年度は令和元年度以来、4年ぶりの海水浴場開設となったが、二見浦海水浴場施設とその周辺の環境や景観を良好な状態に保つことができている。	引き続き、定期的に清掃活動を行い、二見浦海水浴場施設とその周辺の環境や景観を良好な状態に保ち、二見浦の魅力を発信していく。	B							
水産資源の保護に関する啓発	農林水産課	潮干狩りの禁止を広報で周知した。	潮干狩りの禁止を広報で周知した。	潮干狩りの禁止を広報いせ4月15日号で周知した。	潮干狩りの禁止を広報で周知する。	-	潮干狩りの禁止を広報いせ4月15日号で周知した。	A	毎年、広報いせで「潮干狩り禁止」を周知している。	今後も、広報いせで啓発を行うとともに、水産資源保護の取組みに対して支援を行う。	A							
②森林環境の保全	森林がもつ公益的機能を総合的かつ高度に発揮させるための間伐等の適正管理支援	農林水産課	森林経営の意向調査を実施した。意向調査：92ha 今後の森林経営管理方針の計画書を作成した。 計画書作成：5,700ha また残りを森林環境譲与税基金に積立て、計画的な運用を図った。	経営管理の意向調査を実施した。意向調査：108ha 管理意向のある個所の境界確認を行った。 境界確認：21ha 計画的な運用を図るため残りの金額を森林環境譲与税基金に積立てた。	境界確認及び集積計画を実施したが、意向調査については、次年度管理意向のある個所の境界確認を行うため森林環境譲与税基金に積立てた。 【実績】 ・境界確認 24ha ・集積計画 13ha	新たな地域の意向調査を実施し、その結果に基づき境界確認等の方針を決定する。前年度に策定した集積計画に基づき三郷山周辺の間伐を実施する。	森林経営管理事業	経営管理の意向調査を実施した。意向調査：308ha 管理意向のある個所の境界確認を行った。 境界確認：150ha 三郷山周辺の間伐を実施した。 間伐：13ha	A	地域の意向調査を実施し、その結果に基づき境界確認等の方針を決定した。また、集積計画をし、間伐を実施した。	新たな地域の意向調査を実施し、その結果に基づき境界確認等の方針を決定する。また、集積計画を策定し、間伐を実施する。	A						

施策	主な取組	担当課	令和2年度実績			令和3年度実績			令和4年度実績			令和5年度実績			第3期環境基本計画の中間年における総括			
			取組実績	取組実績	取組実績	取組内容	事業名	取組実績	評価	取組の総括 (成果、課題等)	今後の方向性	中間年 総括評価	備考					
	生活環境を守る海岸沿いの防風保安林等、公益的機能が高い森林を保全するための適切かつ効果的な害虫防除の推進	農林水産課	防風保安林等暮らしに身近な森林づくりとして松くい虫防除を行った。 地上散布：6.05ha 樹幹注入：577本 枯松伐倒粉砕：22m ² また残りを森林づくり基金に積立、計画的な運用を図った。	防風保安林等暮らしに身近な森林づくりとして松くい虫防除及び松林間伐を行った。 地上散布：6.1ha、樹幹注入：355本、枯松伐倒粉砕：15.3m ² 松林間伐：383本 また計画的な運用を図るため残りを森林づくり基金に積立した。	防風保安林等において、それぞれ適切な時期に松くい虫防除の地上散布、樹幹注入、枯松伐倒粉砕、松林間伐業務、松林下刈りを行った。また森林づくり基金も活用し公共建築物等の木質化等を推進した。 【実績】 ・地上散布 6.7ha ・樹幹注入 283本 ・枯松伐倒粉砕 24m ² ・松林間伐業務 345本 ・松林下刈 1.8ha	防風保安林等において、それぞれ適切な時期に松くい虫防除の地上散布、樹幹注入、枯松伐倒粉砕、松林間伐業務、松林下刈りを実施する。	森林整備事業	防風保安林等において、それぞれ適切な時期に松くい虫防除の地上散布、樹幹注入、枯松伐倒粉砕、松林間伐業務、松林下刈りを行った。 【実績】 ・地上散布 6.7ha ・樹幹注入 244本 ・枯松伐倒粉砕 18m ² ・松林間伐業務 496本 ・松林下刈 3.7ha	A	防風保安林等において、それぞれ適切な時期に松くい虫防除の地上散布、樹幹注入、枯松伐倒粉砕、松林間伐業務、松林下刈りを行った。	防風保安林等において、それぞれ適切な時期に松くい虫防除の地上散布、樹幹注入、枯松伐倒粉砕、松林間伐業務、松林下刈りを行った。	A						
	農村風景や動植物との出会い、山菜等の山の恵み、山並み景観等、公益的機能を有する里地里山の保全・活用活動の支援	農林水産課	三郷山・音無山・絆の森・横輪環境保全林において、清掃、草刈り、枝打ち等を行った。	三郷山・音無山・絆の森・横輪環境保全林において、清掃、草刈り、枝打ち等を行った。また三郷山階段等の修繕を行った。	三郷山・音無山・絆の森・横輪環境保全林において、清掃、草刈り、枝打ち等を行った。また三郷山階段等の修繕を行った。	三郷山・音無山・絆の森・横輪環境保全林において、保全及び施設の修繕を行う。	環境保全林管理経費	三郷山・音無山・絆の森・横輪環境保全林において、清掃、草刈り、枝打ち等を行った。また三郷山受水槽ポンプ等の修繕を行った。	A	三郷山・音無山・絆の森・横輪環境保全林において、清掃、草刈り、枝打ち等の保全及び施設の修繕を行った。	三郷山・音無山・絆の森・横輪環境保全林において、保全及び施設の修繕を行う。	A						
	公共施設への木材利用の推進	農林水産課	森林環境譲与税を活用し監理課で「海の駅ウッドデッキ設置工事」とみえ森と緑の県民税を活用し、学校統合推進室で「みなと小学校の家具製作」を行い地域材を利用した公共建築物等の木造、木質化を推進した。	森林環境譲与税を活用し、地域材を利用し大定漁港海岸の東屋を木造で設置した。	ふたみ保育園において、県産材を利用した本棚、下駄箱、遊具等の木質化を推進した。	今後の公共建築物等の木造、木質化の推進について関係部署等と調整を行う。	森林経営管理事業	今後の公共建築物等の木造、木質化の推進について関係部署等と調整を行い、実施計画を策定した。 ・しょうぶ園ベンチ ・絆の森、風輪手すり ・大仏山公園、朝熊山麓公園東屋	A	公共建築物等の木造、木質化の推進を実施した。また、今後の推進について関係部署等と調整を行い実施計画を策定した。	今後についても、関係部署等と調整し、計画に基づいて公共建築物等の木造、木質化を推進していく。	A						
③農地環境の保全	担い手農家への農地集積等による遊休農地の解消	農林水産課	遊休農地の解消に係る費用の一部負担を行った。 交付件数3件、解消面積67a	遊休農地の解消に係る費用の一部負担を行った。 交付件数1件、解消面積19a	広報誌を活用し認定農業者等に対して事業の周知を行った。 【実績】 広報いせ10月1日号 遊休農地の解消に係る費用の一部を補助金で支援し、遊休農地の解消を推進した。 【実績】 1件、解消面積：22a	認定農業者や地域の担い手に対して事業の周知を行う。	遊休農地活用事業	広報誌を活用し認定農業者等に対して事業の周知を行った。 【実績】 広報いせ10月1日号	B	補助金を活用することで、農業者の遊休農地の解消への取り組みを支援し、効率的な農作業の促進につなげた。	効率的な農作業の促進を図る観点から、引き続き認定農業者や地域の担い手に対して事業の周知を行っていく。	A						
	景観植物の植栽等による遊休農地の利用促進	農林水産課	遊休農地に植栽等の活動を行った地元団体に対して交付金の支払いを行った。	遊休農地に植栽等の活動を行った地元団体に対して交付金の支払いを行った。	遊休農地に植栽等の活動を行った地元団体に対して交付金の支払いを行った。	地元団体に対して事業の周知を行う。	多面的機能支払交付金事業	遊休農地に植栽等の活動を行った地元団体に対して交付金の支払いを行った。	A	地元団体に対して事業の周知を行い、活動を行った地元団体に対して交付金の支払いを行った。	引き続き地元団体に対して事業の周知を行い、遊休農地へ植栽等の活動を支援していく。	A						
	地産地消の推進	農林水産課	地産地消の店認定制度の展開、学校給食への市内産農水産物の活用に係る支援を行った。 なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、地産地消の認定店交流会は実施しなかった。	地産地消の店認定制度の展開、学校給食への市内産農水産物の活用に係る支援を行った。 なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、地産地消の認定店交流会は実施しなかった。	地産地消の店認定制度の展開、学校給食への市内産農水産物の活用に係る支援を行った。 【実績】 3件 なお、天候不良のため、地産地消の認定店を対象とした農業体験は中止となった。	地産地消の店認定制度を推進するとともに、農業にまつわる写真コンクールを実施し、産直施設で作品を展示し、農業への理解や産直施設への誘客を推進する。	地産地消推進事業	小学生を対象に農業にまつわる写真コンクールを実施し、応募作品を産直施設へ展示することで、農業への理解や産直施設への誘客を推進した。地産地消の店認定店は、引き続き伊勢市ホームページにて店舗の地産地消メニュー等を紹介し、認定制度の推進を図った。	A	地産地消の店認定制度を推進するとともに、学校給食にて市内農産物の活用を行った。また、新たに小学生対象に写真コンクールを実施し、応募作品を産直施設へ展示を行った。「地産地消」への理解や産直施設への誘客につなげることができた。	引き続き、教育分野と連携した取り組みにより地産地消を推進していく。また、地産地消が食の安全・安心やフードマイレージを小さくする等のメリットを加え消費者に対しアピールしていく。	A						
	市内産農産物のブランド化に向けた取組の支援	農林水産課	ブランド化を推進しようとする取り組みに対して補助金を交付した。 交付件数 1件 なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、県外等へのPR活動は実施しなかった。	ブランド化を推進しようとする取り組みに対して補助金を交付した。 交付件数 1件 なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、県外等へのPR活動は実施しなかった。	J A伊勢運台寺柿部会のこれまでの秀品の中から見た目や大きさにより秀でたものを高品質な果実として差別化して販売、展開する取組に対して補助金を交付し、ブランド化を推進できた。	農産物の生産量の増加や認知度向上、6次産業化等にチャレンジする取り組みに対して支援を行う。	競争力強化チャレンジ応援事業	横輪町活性化委員会が自ら生産した横輪いもを使用し、横輪いも入りカステラを製造し、それを活用してPR活動を行うことで、認知度の向上や消費の拡大を図る取組に対して補助金を交付し、ブランド化を推進した。	A	補助金を活用することで、市内産農産物のブランド化に向けた取り組みを支援した。また、市内に訪れる観光客に対して市内産農産物のPRイベントを実施することで認知度の向上を図った。	引き続き、補助制度の活用や関係機関と連携を図ったうえでのPRイベントの実施等により、農産物の認知度向上等を推進していく。	A						
	「伊勢市鳥獣被害防止計画」に基づく獣害に強い集落づくりの体制整備支援	農林水産課	伊勢市鳥獣被害防止計画に基づく、個体数調整、被害防除、生息環境調査等の被害防止対策を総合的に実施した。また、地域が行っている捕獲活動や追い払い活動を支援し、地域主体の取り組みを推進した。	伊勢市鳥獣被害防止計画に基づく、個体数調整、被害防除、生息環境調査等の被害防止対策を総合的に実施した。また、地域が行っている捕獲活動や追い払い活動を支援し、地域主体の取り組みを推進した。	企業や大学と連携し、有害獣の目撃情報報告システムの開発に向けて実証実験を行った。	有害獣目撃情報報告システムの実証実験を進めシステムを完成させる。	獣害防止事業	企業及び大学と連携し、実証実験を進め、実験結果に基づきシステムの開発に取り組んでいたが、令和6年3月末に企業から経営状況の悪化に伴い、開発中止の申し出があり、共同開発が中止となった。	C	伊勢市鳥獣被害防止計画に基づき、有害獣の個体数調整、被害防除、生息環境調査等を行い、総合的な被害対策を実施し、地域が行っている追い払い活動に必要な資材を支給するなど、地域による獣害対策活動の支援を行った。また、獣害システムの導入については、企業及び大学と連携し、システム開発に取り組んでいたが、令和6年3月末に企業より共同開発中止の申し出があり、開発が中止となったため、他のシステム開発企業との連携を検討し、これまでの実証実験結果を活用し、システム導入を進めていく。	引き続き、総合的な被害対策や地域の獣害対策活動を支援するとともに、新たな取り組みとして市民が設置する獣害防護柵に対して市単補助を行う。また、有害獣目撃情報システムについては、これまで共同開発していた企業から中止の申し出があり、開発が中止となったため、他のシステム開発企業との連携検討が必要となった。	B						

(2) 自然との共生

施策	主な取組	担当課	令和2年度実績			令和3年度実績			令和4年度実績			令和5年度実績				第3期環境基本計画の中間年における総括			
			取組実績	取組実績	取組実績	取組内容	事業名	取組実績	評価	取組の総括 (成果、課題等)	今後の方向性	中間年 総括評価	備考						
①生物多様性の保全	生態系に配慮した河川等の整備	基盤整備課	護岸ブロックに環境保全型を使用し、植生の早期復元を図った。 L=211m	護岸ブロックに環境保全型を使用し、植生の早期復元を図った。 L=274m	護岸ブロックに環境保全型を使用し、植生の早期復元を図った。 【実績】 L=74.9m	災害復旧が発生した場合は、環境保全型ブロックの使用を進めている。	河川災害復旧事業	護岸ブロックに環境保全型を使用し、植生の早期復元を図った。 【実績】 L=45.7m	A	生態系に配慮した環境保全型護岸ブロックを使用し、整備を進めることができた。	災害復旧が発生した場合は、引き続き環境保全型ブロックの使用を進めていく。	A							

施策	主な取組	担当課	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績			第3期環境基本計画の中間年における総括					
			取組実績	取組実績	取組実績	取組内容	事業名	取組実績	評価	取組の総括 (成果、課題等)	今後の方向性	中間年 総括評価	備考	
	外来生物による被害 予防に関する情報提 供・啓発	農林水産課	水稲の生産現場において被害を及ぼすスクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）の防除に要する費用に対して補助金を交付した。 交付件数 67件	水稲の生産現場において被害を及ぼすスクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）の防除に要する費用に対して補助金を交付した。 交付件数56件	広報誌の活用および関係機関へのチラシの配布により、補助金の周知を行い、補助金の活用を推進した。 【実績】 《駆除事業》16件、741,170円 《予防事業》22件、1,038,490円	栽培方法の工夫による被害軽減対策（耕種的防除）について、周知を行っていく。	水田等環境改善事業	農業委員会だよりへの掲載を行い、農業者への周知を行った。	A	スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）防除に要する費用への補助及び栽培方法の工夫による被害軽減対策（耕種的防除）の取り組みにより、スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）による被害減少へつなげた。	引き続き、栽培方法の工夫による被害軽減対策（耕種的防除）について、農業委員会だより等に農業者への周知を行っていく。	A		
		環境課	-	広報いせ及びいきもの調査にて生物多様性の保全及び外来生物に関する情報提供・啓発を行った。 広報いせ7月1日号 広報いせ11月1日号 いきもの調査実施回数 9回	環境フェア及び広報いせ、ケーブルテレビ、いきもの調査にて生物多様性の保全及び外来生物に関する情報提供・啓発を行った。 【実績】 ・広報いせ3月15日号 ・ケーブルテレビ放送期間 令和5年2月25日～令和5年3月3日、令和5年3月11日～令和5年3月31日 ・いきもの調査実施回数 11回	広報いせなどにより外来生物に関する情報提供・啓発を行う。	衛生一般経費	環境フェア及びケーブルテレビ、いきもの調査にて生物多様性の保全及び外来生物に関する情報提供・啓発を行った。 【実績】 ・ケーブルテレビ放送期間 令和6年2月1日～令和6年2月15日、令和6年3月16日～令和6年3月31日 ・いきもの調査実施回数 12回	A	環境フェア及び広報いせ、ケーブルテレビ、いきもの調査にて生物多様性の保全及び外来生物に関する情報提供・啓発を行った。	引き続き、環境フェア及び広報いせ、ケーブルテレビ、いきもの調査にて生物多様性の保全及び外来生物に関する情報提供・啓発を行う。	A		
	動植物の生息・生育状況に関する現況把握	環境課	市内の動植物の生息状況を把握することを目的として、採集、写真撮影により種の同定を行い、活動記録をホームページに掲載した。 いきもの調査実施回数 7回	市内の動植物の生息状況を把握することを目的として、採集、写真撮影により種の同定を行い、活動記録をホームページに掲載した。 いきもの調査実施回数 9回	市内の動植物の生息状況を把握することを目的として、採集、写真撮影により種の同定を行い、活動記録をホームページに掲載した。 【実績】いきもの調査実施回数 11回	いきもの調査を実施しながら、機会を捉えて有識者・企業との情報共有を行う。	-	市内の動植物の生息状況を把握することを目的として、採集、写真撮影により種の同定を行い、活動記録をホームページに掲載した。 【実績】いきもの調査実施回数 12回	A	市内の動植物の生息状況を把握することを目的として、採集、写真撮影により種の同定を行い、活動記録をホームページに掲載した。	引き続き、市内の動植物の生息状況を把握することを目的として、採集、写真撮影により種の同定を行い、活動記録をホームページに掲載する。	A		
	生物多様性保全に関する学習機会等の提供	環境課	事業者との連携により出前講座を予定したが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止した。	事業者との連携により出前講座を予定したが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止した。	事業者との連携により生物多様性の保全及び外来生物に関する動画を作成し、広報いせ及びケーブルテレビ等にて周知したことによって、市民に学習機会を提供した。 【実績】 ・広報いせ3月15日号 ・ケーブルテレビ放送期間 令和5年2月25日～令和5年3月3日、令和5年3月11日～令和5年3月31日	生物多様性保全に関する学習機会の提供を事業者・伊勢市環境会議と連携して実施する。	-	事業者との連携により小学生に対して出前授業を実施し、外来種に関する紙芝居、海岸清掃を兼ねた外来種駆除などを通して生物多様性保全に関する動画を制作し、ケーブルテレビ等で周知したことによって、市民に学習機会を提供した。 【実績】 ・ケーブルテレビ放送期間 令和6年2月1日～令和6年2月15日、令和6年3月16日～令和6年3月31日	A	令和2年度～3年度は新型コロナウイルス感染症の影響で出前授業を実施できなかった。令和4年度～5年度は事業者との連携により小学生に出前授業を実施し、外来種に関する紙芝居、海岸清掃を兼ねた外来種駆除などを通して生物多様性保全を図れた。また、外来生物や生物多様性保全に関する動画を制作し、広報いせ・ケーブルテレビ等で周知したことによって、市民に学習機会を提供できた。外来種問題などは身近に起こっているため、市民一人ひとりの意識向上が求められる。	引き続き生物多様性保全に関する学習機会の提供を事業者・伊勢市環境会議などと連携して実施するとともに、広報いせ・ケーブルテレビ等を活用して生物多様性保全への理解を深め、意識向上を図る。	B		
②自然とふれあいの増進	水生生物による水質調査等の自然とふれあえる野外環境学習の開催	環境課	伊勢市環境会議が小学生を対象に自然とふれあえる野外環境学習として、水生生物による水質調査を実施した。 実施回数1回 参加者5名	小学校への通知で参加者を募ったが、申込者がいなかったため中止した。	勢田川ウォッチングを開催し、市内の小学生等に勢田川沿岸の動植物の観察、また、生物調査で捕獲した生物を観察してもらえ野外環境学習の場を提供できた。	勢田川ウォッチングを開催し、市内の小学生等に勢田川沿岸の動植物を観察できる野外環境学習の場を提供する。 このほかにも自然とふれあえる野外環境学習を小学生等を対象として実施する。	生活排水対策啓発事業	勢田川ウォッチングを開催し、市内の小学生に勢田川沿岸の動植物の観察、また、生物調査で捕獲した生物を観察してもらえ野外環境学習の場を提供できた。	A	勢田川ウォッチングを開催し、市内の小学生に勢田川沿岸の動植物の観察、また、生物調査で捕獲した生物を観察してもらえ野外環境学習の場を提供できた。	勢田川ウォッチングを開催し、市内の小学生に勢田川沿岸の動植物の観察、また、生物調査で捕獲した生物を観察してもらえ野外環境学習の場を提供していく。	B		
	自然とふれあえる護岸・親水公園・里山等を整備・充実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	勢田川七ヶ大そうじ等の清掃・美化活動の開催	環境課	勢田川七ヶ大そうじの開催を予定したが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止した。	勢田川七ヶ大そうじを開催し、沿岸自治会とともに勢田川沿岸を清掃した。 また、少人数での清掃活動支援のためにボランティア清掃ごみ袋を作成した。 参加者数 568人 参加自治会数 11自治会	勢田川七ヶ大そうじを開催し、沿岸自治会とともに勢田川沿岸を清掃した。 また、少人数での清掃活動支援のためにボランティア清掃ごみ袋を配布した。 【実績】 ボランティア清掃ごみ袋配布数 1,253枚	勢田川七ヶ大そうじを開催するとともに、ボランティア清掃ごみ袋について少人数での清掃活動に活用いただくことで清掃・美化活動の活発化につなげる。	生活排水対策啓発事業	勢田川七ヶ大そうじを開催するとともに、ボランティア清掃ごみ袋について少人数での清掃活動に活用いただくことで清掃・美化活動の活発化につなげた。 【実績】 ボランティア清掃ごみ袋配布数 715枚	A	勢田川七ヶ大そうじを開催するとともに、ボランティア清掃ごみ袋について少人数での清掃活動に活用いただくことで清掃・美化活動の活発化に定着してきた。	引き続き、勢田川七ヶ大そうじを開催するとともに、ボランティア清掃ごみ袋について少人数での清掃活動に活用いただくことで清掃・美化活動の活発化につなげる。 勢田川沿岸での七ヶ大そうじに代わる清掃・美化活動イベントを検討していく。	B		
	伊勢志摩国立公園の観光資源としての利活用	観光振興課	負担金を拠出している国立公園関係の団体を通して、自然観察会や体験型アクティビティの実施、またそれに係る情報発信を各市町と連携して行った。	負担金を拠出する国立公園関係の団体を通して、自然観察会や体験型アクティビティを一部を除き実施するとともに、それに係る情報発信を各市町と連携して行った。	負担金を拠出する国立公園関係の団体を通して、自然観察会や体験型アクティビティを15回実施、またそれに係る情報発信を各市町と連携して行った。	負担金を拠出する国立公園関係の団体を通して、自然観察会や体験型アクティビティの実施等を行う。	観光一般経費（観光振興課分）	負担金を拠出する国立公園関係の団体を通して、自然観察会や体験型アクティビティを12回実施、またそれに係る情報発信を各市町と連携して行った。	A	各市町の自然・文化的資源を活用した自然観察会や体験型アクティビティを実施した。伊勢志摩国立公園指定80周年に向けての魅力発信が必要。	伊勢志摩国立公園指定80周年に向けて情報発信やイベントの実施等を各市町と連携して行う。	A		

第3期伊勢市環境基本計画 施策推進確認及び中間年における総括評価シート

基本目標4 歴史・文化の薫る、快適に暮らせるまちの形成

(1) 快適で美しい住環境の保全

評価： A:実施できた
B:概ね実施できた
C:ほとんど実施できなかった
D:実施していない

中間年総括評価： A:順調に進んだ
B:進んだ
C:進まなかった

施策	主な取組	担当課	令和2年度実績			令和3年度実績			令和4年度実績			令和5年度実績			第3期環境基本計画の中間年における総括		
			取組実績	取組実績	取組実績	取組内容	事業名	取組実績	評価	取組の総括(成果、課題等)	今後の方向性	中間年総括評価	備考				
①住環境の向上	事業活動に伴う騒音等の適正管理	環境課	騒音規制法等に基づき騒音苦情等に対して適切な指導を行った。	騒音規制法等に基づき騒音苦情等に対して適切な指導を行った。 騒音36件、振動0件、悪臭26件	騒音規制法等に基づき騒音苦情等に対して適切な指導を行った。 【実績】騒音46件、振動0件、悪臭21件	騒音規制法等に基づき基準値を超える騒音等があれば適切な調査・指導を行う。	-	騒音規制法等に基づき騒音苦情等に対して適切な指導を行った。 【実績】騒音20件、振動1件、悪臭22件	A	騒音規制法等に基づき基準値を超える騒音等があれば適切な調査・指導を行った。	引き続き、騒音規制法等に基づき基準値を超える騒音等があれば適切な調査・指導を行う。	A					
	騒音等に関する環境基準に基づく指導・啓発	環境課	騒音規制法等に基づく届出の受理。騒音・振動・悪臭等について調査し現状把握を行った。 調査地点 騒音8、振動1、臭気1	騒音規制法等に基づく法令遵守等の指導を行った。騒音・振動・悪臭等について調査し現状把握を行った。 調査地点 騒音6、振動1、臭気1	騒音規制法等に基づく法令遵守等の指導を行った。騒音・振動・悪臭等について調査し現状把握を行い、結果についても問題なかった。 【調査地点】騒音6、振動1、臭気1	届け出の受理を行うとともに、伊勢市内の自動車騒音や環境騒音・振動、悪臭の環境測定を実施し、施策の基礎資料とする。	調査事業	騒音規制法等に基づく法令遵守等の指導を行った。騒音・振動・悪臭等について調査し現状把握を行い、結果についても問題なかった。 【調査地点】騒音4、振動1、臭気1	A	届け出の受理を行うとともに、伊勢市内の自動車騒音や環境騒音・振動、悪臭の環境測定を実施し、施策の基礎資料とした。	引き続き、届け出の受理を行うとともに、伊勢市内の自動車騒音や環境騒音・振動、悪臭の環境測定を実施し、施策の基礎資料とする。	A					
	電気自動車等の普及促進	環境課	自動車メーカー等との連携によりイベント等を通じて電気自動車のPRを進めた。 イベント実施2日間 来場者 約400人	商業施設で実施したパネル展において電気自動車のPRを図った。	自動車メーカーと連携してイベントを開催し、電気自動車のPRを行った。(イベント実施1日間、来場者約80人)「次世代自動車等を活用したカーボンニュートラルの推進に関する包括連携協定」を締結し、超小型電気自動車の貸与を受け半年間の実証実験を実施している。(R5.9まで)	自治体として電気自動車の導入を進めるとともに、自動車メーカー等との連携によりイベント等を通じて電気自動車のPRを進める。	脱炭素社会推進事業	イベントで電気自動車の展示などを行い、また、商業施設において自動車メーカーと連携してイベントを開催し、電気自動車のPRを行い普及促進に努めた。	A	自動車メーカーと連携してイベントを開催したり、商業施設等で電気自動車の展示などを行うことで普及促進に努めた。令和4年度に「次世代自動車等を活用したカーボンニュートラルの推進に関する包括連携協定」を締結し、超小型電気自動車の貸与を受け実証実験を実施した。	公用車の電動化方針を策定するなど、引き続き自治体として電気自動車の導入を進めるとともに、自動車メーカー等と連携をしながら、イベント等を通じて電気自動車のPRを進める。	A	基本目標1-(1)-②の再掲				
	「伊勢市空家等対策計画」に基づく空家等に関する対策の推進	住宅政策課	空家バンク制度を通じて5件の契約が成約したほか、木造で耐震性のない空家103件、老朽化して危険な空家4件の除却について補助金を交付した。また、第2期伊勢市空家実態調査を実施した。	空家バンク制度を通じて14件の契約が成約したほか、木造で耐震性のない空家103件、老朽化して危険な空家4件の除却について補助金を交付した。また、第2期伊勢市空家等対策計画を策定した。	空家バンク制度を通じて15件の契約が成約したほか、木造で耐震性のない空家105件、老朽化して危険な空家4件の除却について補助金を交付した。	第2期伊勢市空家等対策計画に沿って、令和5年度開始の空家リフォーム促進事業補助金制度及び空家バンク等の各種制度も活用しながら、空家所有者等に適正な管理を求めていく。	空家等対策事業	空家の適正管理について、所有者等に対し周知・啓発及び管理指導を行った。また、空家バンク制度を通じて23件の契約が成約したほか、木造で耐震性のない空家の除却107件、老朽化して危険な空家の除却7件、空家のリフォーム工事7件について補助金を交付した。	A	空家等対策について、所有者等に対し周知・啓発及び管理指導を行った結果、空家の除却補助金を活用した除却件数は毎年度100件以上となった。また、空家バンク制度により57件、令和5年度から開始の空家リフォーム補助金事業により7件の空家について、利活用が図られた。今後も人口減少及び高齢化により、空家件数が増加し、これに伴う管理不全な空家の発生抑制及び解消が課題となる。	引き続き「第2期伊勢市空家等対策計画」に基づき、所有者等に対し空家等対策に関する周知・啓発及び管理指導を行い、空家化の予防及び管理不全な空家を解消するとともに、補助金の活用及び空家バンク運営を通じて空家の除却・利活用の推進を図るなど、空家等対策を効果的に実施していく。	A					
②美しく潤いのある空間づくり	「伊勢市ポイ捨て及び路上喫煙の防止に関する条例」に基づく空き缶やたばこの吸い殻のポイ捨て防止対策等の快適な環境づくりの実施	ごみ減量課	・令和2年8月から開始となった「路上喫煙禁止区域」について、周知のための看板等の設置を行った。 ①伊勢市駅・宇治山田駅前周辺エリア 10基 ②内宮周辺エリア 11基 ・路上喫煙禁止区域のスタートに合わせた、啓発イベントを実施した。 ・路上喫煙パトロールを実施した。 ・伊勢市路上喫煙対策審議会	・路上喫煙パトロール・啓発活動の実施 ・伊勢市路上喫煙対策審議会の開催 【R3実績】 ・審議会 令和4年1月実施 ・パトロール(ポイ捨て本数)区域内：841本、区域外：745本	・路上喫煙パトロール・啓発活動を実施した。 ・伊勢市路上喫煙対策審議会の開催 ・令和4年7月31日に街頭啓発を実施。 【実績】 ・審議会 令和5年3月実施 ・週3回(月、水、金)パトロール実施(ポイ捨て本数)区域内：932本、区域外：1112本	・路上喫煙パトロール・啓発活動の実施。 ・伊勢市路上喫煙対策審議会の開催。	きれいなまちづくり推進事業	・路上喫煙パトロール・啓発活動を実施した。 ・伊勢市路上喫煙対策審議会の開催 ・令和5年7月29日に街頭啓発を実施 【実績】 ・審議会 令和5年10月実施 ・週3回(月、水、金)パトロール実施(ポイ捨て本数)区域内：462本、区域外：978本	A	令和2年8月から伊勢市駅・宇治山田駅前周辺エリア、内宮エリアの路上喫煙禁止区域を開始し、快適な環境づくりの推進を図った。また、禁止区域の周知看板の設置や路上喫煙パトロールや啓発活動を行った。 伊勢市駅前喫煙所について、分煙環境に課題があり、移設又は整備の検討が必要である。	引き続き、路上喫煙禁止区域でのパトロールや啓発活動を実施していく。また、分煙環境、路上喫煙の防止や禁止区域に関して、伊勢市路上喫煙対策審議会での議論を進める。	A					
	看板の設置等による不法投棄の防止	ごみ減量課	不法投棄防止パトロールを実施した。	不法投棄防止パトロールを実施した。 【R3実績】 ・家電4品目 65台 ・タイヤ 100本 ・消火器 69本	不法投棄防止パトロールを実施した。 【実績】 ・家電4品目 132台 ・業務用冷蔵庫 3台 ・タイヤ 24本 ・ガスボンベ 3本 ・消火器 101本	不法投棄防止パトロールの実施。	不法投棄防止対策推進事業	不法投棄防止パトロールを実施した。 【実績】 ・家電4品目 78台 ・タイヤ 102本 ・ガスボンベ 12本 ・消火器 59本 ・金庫 21台	A	不法投棄防止パトロールを実施したほか、自治会の求めに応じて、不法投棄防止看板の提供を行った。市が回収した不法投棄の廃棄物の処分を行った。 今後、不法投棄により生じた廃棄物の処分先の確保が必要である。	引き続き、定期的なパトロールの実施、不法投棄防止看板の提供を行うとともに、広報などで不法投棄防止に関する情報発信を行う。	A					
	除草やごみ拾い等の環境美化活動の促進	環境課	-	少人数での清掃活動支援のためにボランティア清掃ゴミ袋を作成した。 【実績】 ボランティア清掃ゴミ袋配布数 1,253枚	ボランティア清掃ゴミ袋の配布を行い、少人数での清掃活動に活用いただいた。 【実績】 ボランティア清掃ゴミ袋配布数 1,253枚	ボランティア清掃ゴミ袋について少人数での清掃活動に活用いただくことで清掃・美化活動の活発化につなげる。	生活排水対策啓発事業	ボランティア清掃ゴミ袋について少人数での清掃活動に活用いただくことで清掃・美化活動の活発化につなげる。 【実績】 ボランティア清掃ゴミ袋配布数 715枚	A	令和3年度に少人数での清掃活動支援のためにボランティア清掃ゴミ袋について少人数での清掃活動に活用いただくことで清掃・美化活動の活発化につなげる。	引き続き、ボランティア清掃ゴミ袋について少人数での清掃活動に活用いただくことで清掃・美化活動の活発化につなげる。	A	基本目標3-(2)-②の再掲				

施策	主な取組	担当課	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績			第3期環境基本計画の中間年における総括				
			取組実績	取組実績	取組実績	取組内容	事業名	取組実績	評価	取組の総括 (成果、課題等)	今後の方向性	中間年 総括評価	備考
	ペットの飼育マナーの啓発	環境課	動物愛護週間時に広報いせやケーブルテレビを活用し、ペットの飼い方マナーを啓発した。	狂犬病予防注射案内時および動物愛護週間時の広報いせを活用したペットの飼い方マナーを啓発した。 【実績】 ・広報いせ4月1日号 ・広報いせ9月15日号	狂犬病予防注射案内時および動物愛護週間時の広報いせを活用したペットの飼い方マナーを啓発した。 【実績】 ・広報いせ4月1日号 ・広報いせ9月15日号	狂犬病予防注射案内時および動物愛護週間時に広報いせを活用しペットの飼い方マナーを啓発する。	狂犬病予防事業	狂犬病予防注射案内時および動物愛護週間時に広報いせを活用しペットの飼い方マナーを啓発した。 【実績】 ・広報いせ4月1日号 ・広報いせ9月15日号	A	狂犬病予防注射案内時および動物愛護週間時に広報いせを活用しペットの飼い方マナーを啓発した。	引き続き、狂犬病予防注射案内時および動物愛護週間時に広報いせを活用しペットの飼い方マナーを啓発する。	A	
	犬猫の不妊手術の支援	環境課	不妊手術費等の一部助成を行った。補助金交付件数 犬221頭、猫594匹	犬オス103頭、犬メス119頭、猫オス262匹、猫メス321匹、合計805頭・匹の飼い主に対し助成金を交付した。	飼い主のいない猫等56匹について、不妊・去勢手術の支援を行った。また、犬オス135頭、犬メス105頭、猫オス247匹、猫メス294匹、合計781頭・匹の飼い主に対し助成金を交付した。	飼い主のいない猫等の不妊・去勢手術の支援を行う。また、犬猫不妊去勢手術を行った飼い主に助成金を交付する。	犬猫不妊去勢手術推進事業	飼い主のいない猫等89匹について、不妊・去勢手術の支援を行った。また、犬オス104頭、犬メス117頭、猫オス175匹、猫メス222匹、合計618頭・匹の飼い主に対し助成金を交付した。	A	飼い主に対する不妊・去勢手術の助成金交付に加え、令和4年度からは飼い主のいない猫への不妊・去勢手術の支援をはじめた。	引き続き、飼い主のいない猫等の不妊・去勢手術の支援を行う。また、犬猫不妊去勢手術を行った飼い主に助成金を交付する。	A	
	公園緑地の適切な維持管理	維持課	公園緑地を適切に維持管理するため、修繕、清掃、除草、剪定、消毒等を行った。	公園緑地を適切に維持管理するため、修繕、清掃、除草、剪定、消毒等を行った。	公園緑地を適切に維持管理するため、修繕、清掃、除草、剪定、消毒等を行った。 【維持管理数】 250公園	公園緑地を適切に維持管理するため、修繕、清掃、除草、剪定、消毒等を行う。	都市施設維持管理経費(維持課)	公園緑地を適切に維持管理するため、修繕、清掃、除草、剪定、消毒等を行った。 【維持管理数】 254公園	A	公園は増加傾向になっているが、公園緑地を適切に維持管理するように努めた。	公園緑地を適切に維持管理できるように努めていく。	A	
	放置自転車等の撤去・処分等の対策の実施	環境課	-	公共の場所に自動車放置されなかったため、撤去等実施しなかった。	公共の場所に自動車放置されなかったため、撤去等実施しなかった。	公共の場所に放置された放置自動車に関し、警告・移動・撤去等を行う。	衛生一般費	公共の場所に自動車放置されなかったため、撤去等実施する必要がなかった。	A	公共の場所に自動車放置されなかったため、撤去等実施する必要がなかった。	公共の場所放置された放置自動車に関し、警告・移動・撤去等を行う。	A	
交通政策課		駅周辺の駐輪場の管理、放置自転車等の撤去、処分を実施した。 【R2年度撤去台数】455台	放置禁止区域、駐輪場に放置された自転車等301台を撤去し、354台を処分した。	放置禁止区域、駐輪場に放置された自転車等223台を撤去し、224台を処分した。	放置自転車等の撤去、処分等を実施する。	駐輪場管理事業	放置禁止区域、駐輪場に放置された自転車等327台を撤去し、217台を処分した。	A	定期的に巡回し、放置自転車に対して注意喚起、撤去等を行うことで駐輪場の整理し、生活環境の美化を保てることができた。	継続して定期的に巡回を行い、駐輪場並びに生活環境の美化に努める。	A		
維持課		道路・公園・水路等維持課が管理する施設にある放置自転車の撤去を行った。	道路・公園・水路等維持課が管理する施設にある放置自転車の撤去を行った。	道路・公園・水路等維持課が管理する施設にある放置自転車の撤去を行った。	道路・公園・水路等維持課が管理する施設にある放置自転車の撤去を行う。	土木関係維持管理経費	道路・公園・水路等維持課が管理する施設にある放置自転車の撤去を行った。	A	道路・公園・水路等維持課が管理する施設の機能を維持し、事故防止に努めた。	道路・公園・水路等維持課が管理する施設が良好な状態に保たれるよう管理していく。	A		
	公共トイレの整備等、快適な観光環境の整備推進	都市計画課	五十鈴川駅におけるバリアフリー化設備等整備事業を行う鉄道事業者に対し、補助金を交付した。	-	-	-	-	-	-	五十鈴川駅におけるバリアフリー化設備等整備事業を行う鉄道事業者に対し補助金を交付することで、ホームへのエレベーター設置や多機能トイレの整備が行われた。	伊勢市バリアフリーマスタープランに基づき、計画的な整備を推進する。	B	
		維持課	公共トイレを適切に維持管理するため、修繕、清掃を行った。	公共トイレを適切に維持管理するため、修繕、清掃を行った。	公共トイレの適切な維持管理により、快適な環境整備を行った。 【実績】 トイレ数 42か所	公共トイレの適切な維持管理により、快適な環境整備を行う。	都市施設維持管理経費(維持課)	公共トイレの適切な維持管理により、快適な環境整備を行った。 【実績】 トイレ数 42か所	A	公共トイレの適切な維持管理を行い、常に快適な環境を提供できるように努めた。	公共トイレが快適な環境を維持できるように管理していく。	A	
③バリアフリー・ユニバーサルデザインの推進	公共空間・公共施設のバリアフリー化設備等の整備推進	基盤整備課	歩道に点字ブロックを整備し、視覚障がい者も利用し易い環境を整えた。 A=92㎡	歩道に点字ブロックを整備し、視覚障がい者も利用し易い環境を整えた。 A=78㎡	-	-	-	-	-	歩道に点字ブロックを整備し、視覚障がい者も安全に安心して移動できる道路環境を整えることができた。	引き続き、道路整備工事にあわせ公共空間の利便性、安全性の向上を促進するため、道路のバリアフリー化の整備を実施していく。	B	
		基盤整備課	ユニバーサルデザインに配慮した歩道を新設した。 L=172m	ユニバーサルデザインに配慮した遊具を新設した。 N=1基	ユニバーサルデザインに配慮したインクルーシブな遊具の新設や障がい者用駐車スペースを設置した。 【実績】 (朝熊山麓公園) ・インクルーシブな遊具 1基 ・障がい者用駐車スペース 4台	地域住民や来訪者が集える交流拠点となる公園に遊具の増設やユニバーサルデザインに配慮した公園整備を図る。	集まれこどもたち公園整備事業	ユニバーサルデザインに配慮したインクルーシブな遊具の新設やおもいやり駐車スペースを設置した。 【実績】 (市営大仏山公園) ・インクルーシブな遊具 4基 ・おもいやり駐車場 3台	A	地域住民や来訪者が集える交流拠点となる公園へ障がいのある人も誰もが一緒に遊べ、より多くの皆さんが利用できる公園整備を行うことができた。	引き続き、ユニバーサルデザインに配慮したインクルーシブな遊具の設置を検討していく。	A	
	公共施設におけるユニバーサルデザインに配慮した設計の実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	障がい者サポーター制度等のソフト事業の実施	高齢・障がい福祉課	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、年3回程度で実施を計画している講演会・研修会は開催せず、地域や学校等、小規模な研修会を実施した。 ・出前研修会 5か所 ステップアップ講座 2回 小学校への出前講座 6校 ・障がい者サポーター登録者数 45人(累計 1,311人) ・障がい者サポート企業・団体登録数 0企業・団体(累計 28企業・団体) ・キッズサポーター登録者数 215人(累計 1,294人)	・障がいのある人への理解を促進するため、令和4年2月に講演会を実施した。 ・企業等に対して障がい者サポーター養成講座を実施した。(3か所) ・市内の小学3・4年生を対象に、障がい者サポーターの出前授業を行った。(13校) ・障がいのある人の就労について理解を促進する「障がい者就労体験サポート事業」を周知・PRをするため、クラウドファンディングを実施した。	・9月4日に開催した共生社会ホストタウンサミットにおいて、障がい者サポーター制度をはじめとした共生社会の実現に向けた取組みについての発信を行った。 ・3月に共生社会講演会を実施し、障がいのある人への理解促進を図った。 ・企業等に対して障がい者サポーター養成講座を4回実施した。 ・市内の小学3・4年生を対象に、11校で障がい者サポーターの出前授業を行った。	・研修動画視聴によるサポーター登録を開始する。 ・障がい者サポーター登録者数1,355人と前年度増 ・市内の小学校(12校)の3,4年生、高等学校(希望者)へサポーター制度の出前授業を行った。 ・障がい者サポーター制度の周知・啓発を行った。	障がい者サポーター事業	・障がい者サポーター登録者数1,355人と前年度増 ・市内の小学校(12校)の3,4年生、高等学校(希望者)へサポーター制度の出前授業を行った。 ・障がい者サポーター制度の周知・啓発を行った。	B	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、大規模な研修会開催など、従来通りに事業を実施することができない状況が続いていたが、小規模な研修会の開催や、小学校での出前授業の実施、障がい者サポーター制度の周知・啓発などを実施したことにより、障がいのある人への理解促進に努めた。	従来の事業内容を継承しつつ、より効果的な取組を検討し、障がいのある人への理解促進を図る。	B	

施策	主な取組	担当課	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績			第3期環境基本計画の中間年における総括				
			取組実績	取組実績	取組実績	取組内容	事業名	取組実績	評価	取組の総括 (成果、課題等)	今後の方向性	中間年 総括評価	備考
	観光バリアフリー情報の発信	観光振興課	ウェブサイトの情報更新、新しいバリアフリーマップの印刷、「伊勢おもてなしヘルパー」の事業運営（PR・視察対応・調査等）を行った。	バリアフリー観光情報を発信するウェブサイトの情報更新、バリアフリーマップの増刷等を行った。また、「伊勢おもてなしヘルパー」についても、緊急事態宣言等の影響により一部期間で活動を休止するも、事業運営（PR含む）を行った。	バリアフリー観光情報を発信するウェブサイトの情報更新、バリアフリーマップの増刷等を行った。また、「伊勢おもてなしヘルパー」の事業運営（PR含む）を行った。 【利用件数】68件	「観光施設における心のバリアフリー認定制度」の周知、認定促進を行うため、説明会を実施し、認定件数25件を目指す。	バリアフリー観光推進事業	・「観光施設における心のバリアフリー認定制度」の周知・認定を促進するため、説明会を2回実施した。 【認定件数】15件 ・バリアフリー観光情報を発信するウェブサイトの情報更新、バリアフリーマップの情報更新及び増刷等を行った。 【情報更新（新規追加含む）件数】42件 ・「伊勢おもてなしヘルパー」の事業運営に参画した。 【利用件数】134件	B	新型コロナウイルス感染症の影響により、一時期事業の一部休止があったものの、「伊勢おもてなしヘルパー」の事業運営、バリアフリーマップの更新、「観光施設における心のバリアフリー認定制度」の周知・認定等、観光バリアフリーに関する取組を継続して実施できた。「観光施設における心のバリアフリー認定制度」については、認定件数が目標を下回っていることから更なる周知と認定意欲の醸成を図る必要がある。	引き続き観光バリアフリーに関する情報発信や事業運営等を行い、障がいの有無に関わらず安心して来訪できる環境づくりを継続して推進するとともに、伊勢市のバリアフリー観光の認知度向上を図る。	B	

(2) 歴史的・文化的環境の保全

施策	主な取組	担当課	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績			第3期環境基本計画の中間年における総括				
			取組実績	取組実績	取組実績	取組内容	事業名	取組実績	評価	取組の総括 (成果、課題等)	今後の方向性	中間年 総括評価	備考
①伊勢の環境文化の保全	歴史的・文化的資産の保存・継承	文化政策課	【宮川堤】宮川堤桜樹再生プロジェクトによって樹勢が弱まった桜樹4本に対して樹勢回復処置を実施した。 【臥竜梅】市指定天然記念物臥竜梅を含む計25本の梅に対して樹勢回復作業を実施した。 【オヤネザクラ】市指定天然記念物オヤネザクラ1本の樹勢を回復させるため、土壌改良作業を実施した。	市が所有、管理する史跡・名勝・天然記念物等の維持管理を行った。史跡等6箇所、名勝1箇所、天然記念物2件	市が所有、管理する史跡・名勝・天然記念物等の維持管理を行った。・国史跡・旧豊宮崎文庫の桜樹維持、害虫防除等 ・県名勝・宮川堤の桜樹維持等 ・市天然記念物・オヤネザクラの害虫防除、樹種分析のためのDNA鑑定等 ・市天然記念物・臥竜梅の公園管理、概況調査、移植等 ・以上のほか、隠岡遺跡公園、丁塚古墳史跡公園等の除草・清掃等	市が所有、管理する史跡・名勝・天然記念物等の維持管理を行う。天然記念物・臥竜梅について、原木の一部を他所へ移植し、種の保存の取組を行う。	文化財維持管理経費	市が所有、管理する史跡・名勝・天然記念物等の維持管理を行った。 ・国史跡・旧豊宮崎文庫の桜樹維持、害虫防除等 ・県名勝・宮川堤の桜樹維持等 ・市天然記念物・オヤネザクラの害虫防除等 ・市天然記念物・臥竜梅の公園管理、概況調査、移植・増殖等 ・以上のほか、隠岡遺跡公園、丁塚古墳史跡公園等の除草・清掃等	A	市が所有、管理する史跡・名勝・天然記念物等の維持管理を適切に行った。天然記念物については、樹木医等とも連携し、樹勢維持や回復のための取組を計画的に実施した。	天然記念物の管理においては、引き続き樹木医等とも連携し、適切な維持管理に努めていく。また、周知により地域住民等の理解を促し、日常管理への協力体制の構築を目指す。	A	
	伊勢の環境と暮らし等に関する学習機会の提供	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	地産地消や食育を通じた食文化の継承	学校教育課 教育総務課	委託校において、地域の自然や文化、農業、食料の大切さ等について子どもたちの理解が深まるよう、地域の生産者等と連携した取組を行った。	委託校において、児童生徒が地域の自然や環境、産業、歴史などについて理解を深められるよう、田植えや畑の栽培等の体験活動を、地域の生産者や高校との交流を通じて取り組んだ。	委託校において、児童生徒が地域の自然や環境、産業、歴史などについて理解を深められるよう、田植えや畑の栽培、調理等の体験活動を、地域の生産者や高校との交流を通じて取り組んだ。 【実績】小学校2校、中学校1校 学校給食献立に地場産物を積極的に活用するとともに、使用食材の産地割合、給食献立表やレシピを情報発信し、食への理解・関心を高めた。	委託校において、地域の自然や文化、農業、食料の大切さ等について子どもたちの理解が深まるよう、地域の生産者等と連携した取組を行う。 学校給食においても地場産物の活用促進を図るとともに、旬の食材、郷土食や行事食を取り入れ食文化の継承に努める。	食育推進事業	委託校において、児童生徒が地域の自然や文化、農業、食料の大切さ等について理解を深められるよう、田植えや野菜の栽培、調理等の体験活動を、地域の生産者や高校と連携した取り組みを行った。 【実績】小学校2校、中学校1校	A	地域食材の良さや栽培方法について学がごとく、食に関する知識や意識を高めることができた。また、地域の人々の思いや優しさ、生き方に触れ、地域に愛着を持つことができた。	今後も引き続き本事業を活用し、地域の生産者等との連携をもとに、充実した食教育を行っていく必要がある。	B	
		健康課	地元食材、季節の食材を使ったヘルスマイト料理講座を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	1月に亥の子餅を作成。 ※11月に実施予定であったが、コロナの状況により1月に振替となった。	6月にいばらまんじゅう、12月におせち料理を取り入れた献立で、ヘルスマイト料理講習会を行った。 【実績】6回、67名	食文化の継承のため季節の食材を使用したり、ヘルスマイト料理講座にて郷土料理等を取り入れる。	食生活改善推進事業	7月にいばらまんじゅう、12月におせち料理を取り入れた献立で、ヘルスマイト料理講習会を行った。 【実績】6回、70名	A	コロナ禍以外では、継続して講座を実施し多くの人に食文化に興味をもってもらう。しかし参加者は高齢者が多く、若い世代への継承が課題である。	郷土料理が衰退していかないように継続して実施していく。	B	
		観光振興課	浜掃除2校、河川掃除1校	負担金を拠出する国立公園関係の団体を通して、域内の清掃活動の実施等を行った。	負担金を拠出する国立公園関係の団体を通して、二見浦・横輪町等で30回程度域内の清掃活動の実施等を行った。	負担金を拠出する国立公園関係の団体を通して、域内の清掃活動の実施等を行う。	観光一般経費 (観光振興課分)	負担金を拠出する国立公園関係の団体を通して、二見浦・横輪町等で30回程度域内の清掃活動の実施等を行った。	A	負担金を拠出する国立公園関係の団体を通して、域内の清掃活動の実施等を行った。	引き続き、負担金を拠出する国立公園関係の団体を通して、域内の清掃活動の実施等を行っていく。	A	
②良好な景観の形成	住民参加型の景観保全活動の推進	都市計画課	景観形成の意識啓発を図るため、景観コンクールを実施した。 応募総数 絵画196点、写真62点	景観形成の意識啓発を図るため、景観コンクールを実施した。 応募実績：絵画507点、写真58点	景観コンクールを実施した。絵画455点、写真120点の応募があった。	景観コンクールを実施する。新たな周知方法を検討し、多くの人への啓発を図る。	景観形成推進事業	景観コンクールを実施した。絵画464点、写真81点の応募があった。	B	各年度において、景観コンクールを実施できた。入賞者への表彰式を賣日館で行い、伊勢市の景観の取り組みについて講演を実施するとともに、入賞作品を市内各所で巡回展示し、将来を担う子ども達への一層の景観意識向上を図った。	引き続き景観コンクールを実施する。新たな周知方法を検討し、より多くの人への啓発を図る。	B	
	「伊勢市景観計画」の推進	都市計画課	良好な景観形成を推進するため、重点地区については、助成基準に適合した事業に対し補助金を交付した。 交付件数 9件	良好な景観形成を推進するため、重点地区については、助成基準に適合した事業に対し補助金の交付を決定した。 交付決定：1件	窓口でのチラシ配布やホームページでの周知を図った。重点地区については、助成基準に適合した事業に対し補助金を交付した。 【交付件数】2件	窓口でのチラシ配布やホームページでの周知を図るとともに、重点地区については、助成基準に適合した事業に対し補助金を交付する。	景観形成推進事業	窓口でのチラシ配布やホームページでの周知を図った。重点地区については、助成基準に適合した事業に対し補助金を交付した。 【交付件数】8件	A	窓口でのチラシ配布やホームページでの周知を着実に進めることができた。重点地区については、助成基準に適合した事業に対し補助金を交付し、景観形成の推進を図ることができた。	引き続き窓口でのチラシ配布やホームページでの周知を図るとともに、重点地区については、助成基準に適合した事業に対し補助金を交付する。	B	
	電線類の地中化の推進	基盤整備課	-	-	岡本吹上線の無電柱化を推進するため、測量及び予備設計を行った。 【実績】 測量 L=300m 予備設計 L=600m	防災、安全・円滑な交通確保、景観形成のため、宇治山田駅前の岡本吹上線の無電柱化整備を行う。	岡本吹上線改良事業	岡本吹上線の無電柱化を推進するため、詳細設計を行った。 【実績】 詳細設計 L=600m	A	宇治山田駅前の岡本吹上線の無電柱化整備に必要な設計を進めることができた。	引き続き、防災、安全・円滑な交通確保、景観形成のため、宇治山田駅前の岡本吹上線の無電柱化整備を実施していく。	A	
③伊勢の環境文化を伝えるおもてなし	市民参加による「花のあるまちづくり」の推進	維持課	市民参加による「花のまちづくり」を推進するため、市民団体が行う公共用地花壇等の植栽に支援を行った。	市民参加による「花のまちづくり」を推進するため、市民団体が行う公共用地花壇等の植栽に支援を行った。 【実績】32団体	市民団体が行う公共用地花壇等の植栽に支援を行った。	市民団体が行う公共用地花壇等の植栽に支援を行う。	都市施設維持管理経費（維持課）	市民団体が行う公共用地花壇等の植栽に支援を行った。 【実績】31団体	A	市民参加による「花のあるまちづくり」の推進により、おもてなし気運の醸成が図られた。	引き続き植栽への支援を行うとともに、市民団体への継続参加を呼び掛ける。	A	

施策	主な取組	担当課	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績				第3期環境基本計画の中間年における総括			
			取組実績	取組実績	取組実績	取組内容	事業名	取組実績	評価	取組の総括 (成果、課題等)	今後の方向性	中間年 総括評価	備考
	まちなかにおける緑化の推進	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	路上喫煙を禁止する区域の検討	ごみ減量課	伊勢市路上喫煙対策審議会	伊勢市路上喫煙対策審議会 (R3実績：令和4年1月実施)	伊勢市路上喫煙対策審議会 【実績】1回（令和5年3月実施）	伊勢市路上喫煙対策審議会を開催する。	伊勢市路上喫煙対策審議会	伊勢市路上喫煙対策審議会 【実績】1回	A	路上喫煙禁止区域や路上喫煙の防止に関して審議した。	引き続き、分煙環境、路上喫煙の防止や禁止区域に関して、伊勢市路上喫煙対策審議会にて審議する。	A	基本目標4-(1)-②の再掲
	地域ならではの特色を持つさまざまな自然や生活文化、食等の資源の発掘、発信	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第3期伊勢市環境基本計画 施策推進確認及び中間年における総括評価シート

基本目標5 環境保全に取り組むための基盤づくり

(1)環境教育・環境学習の充実

評価： A:実施できた
B:概ね実施できた
C:ほとんど実施できなかった
D:実施していない

中間年総括評価： A:順調に進んだ
B:進んだ
C:進まなかった

施策	主な取組	担当課	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	取組内容	令和5年度実績			第3期環境基本計画の中間年における総括			
			取組実績	取組実績	取組実績		事業名	取組実績	評価	取組の総括(成果、課題等)	今後の方向性	中間年総括評価	備考
①環境教育・学習の充実	環境問題やその対策について考える機会の充実	環境課	伊勢市の環境問題や対策について啓発・情報発信等を行うため、環境フェアの開催を予定したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。	伊勢市の環境問題や対策について啓発・情報発信等を行うため、環境フェアの開催を予定したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。	伊勢市の環境問題や対策について啓発・情報発信等を行うため、環境フェアを開催した。 【実績】 開催日 令和4年10月10日 来場者 5,000人	環境フェア等を開催し、伊勢市の環境問題や対策について啓発・情報発信等を行う。	環境フェア等開催事業	伊勢市の環境問題や対策について啓発・情報発信等を行うため、環境フェアを開催した。 【実績】 開催日 令和5年10月9日 来場者 8,000人	A	伊勢市の環境問題や対策に係る啓発・情報発信等を行うことを目的とした環境フェアについて、令和2年度～3年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中止したが、令和4年度～5年度は開催し、来場者に対して環境意識の向上や市などが取り組む施策への理解・協力を促した。より多くの方に啓発を促すために、来場者数増加に努める必要がある。	引き続き環境フェア等を開催し、伊勢市の環境問題や対策について啓発・情報発信等を行う。来場者数増加を図るため、内容の充実・開催に係る周知方法などを検討する必要がある。	B	
		ごみ減量課	「伊勢市環境会議」の主催で、食品ロスの削減及び3Rの推進を目的に、市内小中学校を対象に「MOTTAINAI推進ポスター」の募集を行った。(応募総数198作品入賞51作品)	・食品ロスの削減、3Rの推進をテーマに、MOTTAINAIポスターコンクールを実施した。 ・雑がみチャレンジ参加校ハイトレットパーパー寄贈した。 【R3実績】 ・ポスターコンクール応募数 422点	・食品ロスの削減、3Rの推進をテーマに、MOTTAINAIポスターコンクール、小学4年生を対象とした雑がみチャレンジや小学校5年生を対象としたごみゼロチャレンジを実施した。 【実績】 ・ポスターコンクール応募数 397点 ・雑がみチャレンジ参加校参加校 12校 参加児童536人 ・ごみゼロチャレンジ参加校参加校 7校 参加児童291人	食品ロスの削減、3Rの推進をテーマに、MOTTAINAIポスターコンクールの実施や小学4年生及び5年生を対象に雑がみや食品ロス削減等についての環境学習の充実を図る。	きれいなまちづくり推進事業	・食品ロスの削減、3Rの推進をテーマに、MOTTAINAIポスターコンクール、小学4年生を対象とした雑がみチャレンジや小学校5年生を対象としたごみゼロチャレンジを実施した。 【実績】 ・ポスターコンクール応募数 394点 ・雑がみチャレンジ参加校参加校 11校 参加児童459人 ・ごみゼロチャレンジ参加校参加校 5校 参加児童140人	A	MOTTAINAI(もったいない)ポスターコンクールを実施し、小中学生に対して、食品ロス削減を考えた雑がみチャレンジや小学校5年生を対象としたごみゼロチャレンジを実施した。 「雑がみチャレンジ」、「ごみゼロチャレンジ」により小学4、5年生を対象に家庭でのごみの分別・減量する機会を創出したことで、ごみの分別・減量の習慣化の一助になった。今後は市内すべての学校に参加いただけるよう学校に働きかけをする必要がある。	持続的な啓発のために、引き続きMOTTAINAI(もったいない)ポスターコンクール、「雑がみチャレンジ」、「ごみゼロチャレンジ」を実施し、今後はより多くの小学校に参加いただくよう働きかけをしていく。	A	ポスターコンクールについては、基本目標2-(1)-①の再掲 雑がみチャレンジについては、基本目標2-(1)-③の再掲
		学校教育課	・全小中学校による学校環境デーを中心に学校や地域の状況に応じた特色ある取組(外部講師招聘・企業連携・校外学習等の取組等)を予定していた。新型コロナウイルス感染拡大防止のため可能な範囲で実施した。 ・リサイクル活動のためのアルミ缶回収の実施をした。 ・省エネルギーの取組(節電・節水の推奨、緑化活動)32校 ・学校、地域ごとの浜清掃、河川清掃の実施11校	・全小中学校が学校環境デー(6月5日)を中心に学校や地域の状況に応じた特色ある環境教育・環境保全に関する取組を実施。 ・環境集会3校、児童会を中心とした取組等の実施32校 ・省エネルギーの取組(節電・節水の推奨、緑化活動)32校 ・リサイクル活動のためのアルミ缶回収、給食牛乳パック回収の実施32校 ・学校、地域ごとの浜清掃、河川清掃の実施11校	・全小中学校が学校環境デー(6月5日)を中心に学校や地域の状況に応じた特色ある環境教育・環境保全に関する取組を実施。 ・環境集会5校、児童会を中心とした取組等の実施32校 ・省エネルギーの取組(節電・節水の推奨、緑化活動)32校 ・リサイクル活動のためのアルミ缶、古紙段ボール、インクカートリッジ、エコキャップ、使用済みカイロ回収等の回収実施32校 ・学校、地域ごとの浜清掃、河川清掃の実施5校	・学校環境デー(6/5)をはじめ、環境保全の取組を継続して推進するとともに、各学校の取組を学校だより、学級通信等を通して発信を継続する。 ・環境課と協力して、環境教育と連携できる企業を開拓するとともに、現在連携している企業を有効に活用できるよう学校に働きかけていく。また、オンライン開催が可能な取組を提案していく。	-	・全小中学校が学校環境デー(6月5日)を中心に学校や地域の状況に応じた特色ある環境教育・環境保全に関する取組を実施。 ・環境集会5校、児童会を中心とした取組等の実施32校 ・省エネルギーの取組(節電・節水の推奨、緑化活動)32校 ・リサイクル活動のためのアルミ缶、古紙段ボール、インクカートリッジ、エコキャップ、使用済みカイロ回収等の回収実施32校 ・学校、地域ごとの浜清掃、河川清掃の実施8校	A	・環境課と連携し、出前授業の内容変更・地域の中でできる出前授業等、授業内容を工夫改善し、体験的・参加型の環境教育に取り組んだ。また、体験型・参加型の学習を大切にしつつ、オンライン授業も実施した。 ・SDGsと関連した授業内容の出前授業を実施し、SDGsの目標達成に向けた行動を促進した。	・環境課と連携し、環境教育と連携できる企業を開拓するとともに、現在連携している企業を有効に活用できるよう、学校に働きかけていく。 ・体験活動がより各校のねらいにそったものになるよう、有効的なICTの活用や交流学習の進め方などを検討しながら進めていきたい。	A	
自然観察等の体験学習の機会の充実	学校教育課	浜掃除2校、河川掃除1校	・「きらり自然体験活動推進事業」を小学校3校で実施し学校独自の自然体験活動を推進。 ・「ふれる・つくる・かんじる自然体験プログラム」小学校3校で実施し環境省やみえ森づくりサポートセンターと連携して横輪川での生き物探しやラブリバー公園に出かけ植物について詳しく学ぶ等、自然や環境を大切にすることを育む取組を行った。 ・汁谷川の観察小学校3校で実施。	・「きらり自然体験活動推進事業」を小学校3校で実施し学校独自の自然体験活動を推進した。 ・「ふれる・つくる・かんじる自然体験プログラム」小学校9校で実施し環境省やみえ森づくりサポートセンターと連携して横輪川での生き物探しやラブリバー公園に出かけ植物について詳しく学ぶ等、自然や環境を大切にすることを育む取組を行った。 ・タブレット端末やICT機器を活用したまとめ活動・プレゼンテーションが行われた。 【実績】4校	・「きらり自然体験活動推進事業」において、学校独自の自然体験活動を小学校5校で実施する。 ・「ふれる・つくる・感じる自然体験プログラム」において、小学校で実施し、横輪川での生き物探しやラブリバー公園に出かけ植物についてくわしく学ぶ等の活動を行う。	豊かな心を育む体験交流活動推進事業	・「きらり自然体験活動推進事業」を小学校5校で実施し学校独自の自然体験活動を推進した。 ・「ふれる・つくる・かんじる自然体験プログラム」小学校9校で実施し環境省やみえ森づくりサポートセンターと連携して横輪川での生き物探しやラブリバー公園に出かけ植物について詳しく学ぶ等、自然や環境を大切にすることを育む取組を行った。	A	・「きらり自然体験活動推進事業」では、各校の身近な人材の協力や身の回りの自然とふれあう活動などを取り入れた活動が行われ、地域の人や環境をより身近に感じたり考えたりすることができた。 ・「ふれる・つくる・かんじる自然体験プログラム」では、各校と希望する体験学習の打ち合わせを行い、ゲストティーチャーを招いた自然体験、環境を守る学習やいのちの学習に取り組めた。	・多くの児童生徒が伊勢市または自分たちの学校の身近な自然やいのちについてふれて体験できる機会をつくることと、ゲストティーチャーと学校をつなげることで、今後学校企画による体験活動へと発展させたい。	A		
出前講座による環境学習の推進	環境課	持続可能な社会づくりに貢献する人材育成のため、大学と連携し、環境教育の出前講座等を実施した。 高等学校2校 7クラス	持続可能な社会づくりに貢献する人材育成のため、大学・企業と連携し、環境教育の出前講座等を実施した。 小学校2校	持続可能な社会づくりに貢献する人材育成のため、大学・企業と連携し、環境教育の出前講座等を実施した。 【実績】小学校 延べ11校、610人	民間事業者・大学等と連携し、小中学生を対象に出前講座等を実施する。	環境教育推進事業	持続可能な社会づくりに貢献する人材育成のため、大学・企業と連携し、環境教育の出前講座等を実施した。 【実績】小学校 延べ15校、837人	A	令和2年度・令和3年度は新型コロナウイルス感染症により、実施回数を伸ばすことができなかったが、令和4年度・令和5年度にかけては学生に環境教育の場を多く提供し、意識の高揚が図れた。また、民間事業者との協定締結により講座内容の充実が図れた。	引き続き、民間事業者・大学等と連携し、小中学生を対象に出前講座等を実施する。民間事業者との連携協定を増やすことで、講座内容の充実を図り、学生への意識啓発により一層努めていく。	B		

施策	主な取組	担当課	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績			第3期環境基本計画の中間年における総括				
			取組実績	取組実績	取組実績	取組内容	事業名	取組実績	評価	取組の総括 (成果、課題等)	今後の方向性	中間年 総括評価	備考
		ごみ減量課	市内の幼稚園・保育園を対象に、紙芝居や劇によるごみの分別・3Rの推進の環境出前講座を実施した。(延べ10回、新型コロナウイルス感染拡大予防のため一部自粛)	市内の幼稚園・保育園を対象に、紙芝居や劇によるごみの分別・3Rの推進の環境出前講座を実施した。(R3実績:12回)	市内の幼稚園・保育園を対象に、紙芝居や劇によるごみの分別体験や3Rの推進に関する環境出前講座を実施した。【実績】17回	市内の幼稚園・保育園を対象に、紙芝居や劇によるごみの分別や減量の推進に関する環境出前講座を実施する。	きれいなまちづくり推進事業	市内の幼稚園・保育園を対象に、紙芝居や劇によるごみの分別や減量の推進に関する環境出前講座を実施した。【実績】23回	A	幼稚園・保育園へごみや資源物の分別方法を周知し、分別意識の向上を図ることができた。	引き続きごみの分別や減量に関する講座を実施する。	A	
		ごみ減量課	小学校向けの出前授業については、新型コロナウイルス感染拡大予防により、パッカー車による収集の様子を屋外から見学する方法や、資料提供のみを行う方法などを実施した。	小学校の社会学習として、ごみの分別・3Rの推進の説明やパッカー車による収集の体験等を行う出前授業を実施した。(R3実績:7校)	小学校の社会学習として、ごみの分別・3Rの推進の説明やパッカー車による収集の体験等を行う出前授業を実施した。【実績】11校、延べ519人参加	小学校の社会学習として、ごみの減量に関する講座やパッカー車による収集の体験等を行う出前授業を実施する。	MOTTAINAI推進事業	小学校の社会学習として、ごみの減量に関する講座やパッカー車による収集の体験等を行う出前授業を実施した。【実績】12校、延べ463人参加	A	小学生へごみや資源物の分別方法を周知し、分別意識の向上を図ることができた。希望する小学校が増えてきているが、市内すべての学校で実施できるよう学校に働きかけをする必要がある。	引き続きごみの分別や減量に関する出前授業を実施するとともに、市内すべての学校で実施できるよう学校に働きかけをする必要がある。	A	基本目標2-(3)-①の再掲
	市HPや広報いせを活用した情報発信の強化	環境課	市が実施したいきもの調査の結果をホームページで情報発信した。	市が実施したいきもの調査の結果をホームページで情報発信した。	市が実施したいきもの調査の結果をホームページで情報発信した。	市が実施したいきもの調査の結果をホームページで情報発信する。	-	市が実施したいきもの調査の結果をホームページで情報発信した。	A	市が実施したいきもの調査の結果をホームページで情報発信し、市内の生態系の情報を市民に提供することができた。	引き続き、市が実施したいきもの調査の結果をホームページで情報発信し、市内の生態系の情報を市民に提供することができた。	A	
		ごみ減量課	Facebook、Instagramのアカウントを開設し、市HP・広報いせ・SNS等と合わせた積極的な情報発信を行った。 LINEの伊勢市公式アカウントで祝日のごみの回収情報や、食品ロスキャンペーン等の情報を配信した。	市HP・広報いせやSNS等(Facebook, Instagram)を活用し、積極的な情報発信を行った。 LINEの伊勢市公式アカウントで祝日のごみの回収情報や、食品ロスキャンペーン等の情報を配信した。【R3実績】 ・フォロワー数 (FB) 103人 ・LINEアプリ登録数 15,177人	市HP・広報いせやSNS等(Facebook, Instagram)を活用し、積極的な情報発信を行った。 LINEの伊勢市公式アカウントで祝日のごみの回収情報や、食品ロスキャンペーン等の情報を配信した。【実績】 ・フォロワー数 (Facebook) 43人 (Instagram) 64人 ・LINEアプリ登録数 21,412人	市HP・広報いせやSNS等(Facebook, Instagram)を活用し、積極的な情報発信を行う。 LINEの伊勢市公式アカウントで祝日の燃えるごみの収集情報や、食品ロスキャンペーン等のイベント情報を配信する。	MOTTAINAI推進事業	市HP・広報いせやSNS等(Facebook, Instagram)を活用し、積極的な情報発信を行った。 LINEの伊勢市公式アカウントで祝日のごみの収集情報や、食品ロスキャンペーン等のイベント情報を配信した。【実績】 ・フォロワー数 (Facebook) 46人 (Instagram) 93人 ・LINEアプリ登録数 27,701人	A	Facebook、Instagramのアカウントを開設し、市HP・広報いせ・SNS等と合わせた情報発信の強化に努めた。また、LINEの伊勢市公式アカウントでごみ収集の情報や食品ロスキャンペーン等のイベント情報を配信し、積極的な情報発信を行った。情報発信をしているが、フォロワー数が伸び悩んでおり、工夫が必要である。	引き続きあらゆる媒体を使って、情報発信を行っている。また、フォロワー数を増やすよう情報発信の方法などの工夫をしていく。	A	
	学校における環境教育の充実	環境課	県内の公的機関、NPO等が実施する出前講座等の情報を学校へ提供するために取りまとめを行った。	環境教育プログラムの充実を図るため、新たな連携先の掘り起こしを行った。	環境教育プログラムの充実を図るため、新たな連携先の掘り起こしに努めたが、新規の連携には繋がらなかった。	新たな連携先を創出し、環境教育プログラムの充実を図る。	-	環境教育プログラムの充実を図るため、新たな連携先の掘り起こしを行い、2社と協定締結した。	A	学校に県内の公共機関等が実施する出前講座などの情報を提供するために取りまとめを行った。また、環境教育プログラムの充実を図るため、新たな連携先の掘り起こしを行った。課題としては、活用回数が少ない学校があり、そういったところに活用してもらえようようにしたい。	引き続き環境教育プログラムの充実を図るとともに、環境教育の活用を呼び掛けていく。	A	
		学校教育課	全小中学校による学校環境デーを中心に学校や地域の状況に応じた特色ある取組(外部講師招聘・企業連携・校外学習等の取組等)を予定していた。新型コロナウイルス感染拡大防止のため可能な範囲で実施した。	全小中学校が学校環境デー(6月5日)を中心に学校や地域の状況に応じた特色ある環境教育・環境保全に関する取組を実施。 環境集会3校児童会を中心とした取組等の実施32校 省エネルギーの取組(節電・節水の推奨、緑化活動) リサイクル活動のためのアルミ缶回収、給食牛乳パック回収の実施32校 学校、地域ごとの浜清掃、河川清掃の実施11校	全小中学校が学校環境デー(6月5日)を中心に学校や地域の状況に応じた特色ある環境教育・環境保全に関する取組を実施。 環境集会5校、児童会を中心とした取組等の実施32校 省エネルギーの取組(節電・節水の推奨、緑化活動)32校 リサイクル活動のための、アルミ缶、古紙段ボール、インクカートリッジ、エコキャップ、使用済みカイロ回収等の回収実施32校 学校、地域ごとの浜清掃、河川清掃の実施5校	学校環境デー(6/5)をはじめ、環境保全の取組を継続して推進するとともに、各学校の取組を学校だより、学級通信等を通じた発信を継続する。 環境課と協力して、環境教育と連携できる企業を開拓するとともに、現在連携している企業を有効に活用できるよう学校に働きかけていく。また、オンライン開催が可能な取組を提案していく。	-	全小中学校が学校環境デー(6月5日)を中心に学校や地域の状況に応じた特色ある環境教育・環境保全に関する取組を実施。 環境集会5校、児童会を中心とした取組等の実施32校 省エネルギーの取組(節電・節水の推奨、緑化活動)32校 リサイクル活動のための、アルミ缶、古紙段ボール、インクカートリッジ、エコキャップ、使用済みカイロ回収等の回収実施32校 学校、地域ごとの浜清掃、河川清掃の実施8校	A	環境課と連携し、出前授業の内容変更・地域の中でできる出前授業等、授業内容を工夫改善し、体験的・参加型の環境教育に取り組んだ。また、体験型・参加型の学習を大切にしつつ、オンライン授業も実施した。 SDGsと関連した授業内容の出前授業を実施し、SDGsの目標達成に向けた行動を促進した。	環境課と連携し、環境教育と連携できる企業を開拓するとともに、現在連携している企業を有効に活用できるよう、学校に働きかけていく。 体験活動がより各校のねらいにそったものになるよう、有効的なICTの活用や交流学習の進め方などを検討しながら進めていきたい。	A	基本目標5-(1)-①の再掲
	稲作、のり作り等の農水産業体験の機会の充実	農林水産課	水産教室を実施。(新型コロナウイルス感染症の影響により6校中4校中止) 蓮台寺柿、横輪いも、青ねぎの食育体験を実施した。 なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、食育体験(水稲)は実施しなかった。	水産教室は新型コロナウイルス感染症の影響により中止 水稲(田植え)、蓮台寺柿、横輪いも、青ねぎの食育体験を実施した。 なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、水稲(稲刈り)は実施しなかった。	【水産教室】伊勢市の漁業に関する講習、のり作り体験を実施した。 【食育体験】水稲(田植え)、蓮台寺柿、横輪いも、青ねぎについて、食育体験を実施した。 なお、水稲(稲刈り)については、天候不良のため、中止となった。	水産教室の実施。 食育体験の実施。	水産教室実施事業 農業体験学習事業	【水産教室】水産教室は海苔不漁により実施できなかった。 【食育体験】水稲(田植え)、蓮台寺柿、横輪いも、青ねぎ、花育について、食育体験を実施した。	B	【水産教室】水産教室について、新型コロナウイルスや海苔不漁により、実施ができない年度もあったが、可能な範囲で実施を行った。 【食育体験】食育体験について、新型コロナウイルスにより、実施できない事業もあったが、工夫を凝らし出来る限り、学習機会の提供を行った。	【水産教室】今後も漁業や地域の水産物の魅力を伝えるための取組として、水産教室等を実施する。 【食育体験】今後も地域の生産農家等と協力し、子ども達への食育の観点から、農業体験による学習機会の提供を行っていく。	B	
②環境教育等を推進する体制づくり	事業者との連携による環境教育・環境学習の推進	環境課	環境教育プログラムの充実を図るため、新たな連携先の掘り起こしを行った。	事業者と環境教育に係る連携協定を締結しており、協定に基づき環境教育を実施できるよう学校への周知を図った。	環境教育プログラムの充実を図るため、新たな連携先の掘り起こしに努めたが、新規の連携には繋がらなかった。	新たな連携先を創出し、環境教育プログラムの充実を図る。	-	環境教育プログラムの充実を図るため、新たな連携先の掘り起こしを行い、2社と協定締結した。	A	学校に県内の公共機関等が実施する出前講座などの情報を提供するために取りまとめを行った。また、環境教育プログラムの充実を図るため、新たな連携先の掘り起こしを行った。課題としては、活用回数が少ない学校があり、そういったところに活用してもらえようようにしたい。	引き続き環境教育プログラムの充実を図るとともに、環境教育の活用を呼び掛けていく。	A	基本目標5-(1)-①の再掲

施策	主な取組	担当課	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績			第3期環境基本計画の中間年における総括				
			取組実績	取組実績	取組実績	取組内容	事業名	取組実績	評価	取組の総括 (成果、課題等)	今後の方向性	中間年 総括評価	備考
	環境教育・環境学習の機会に対する講師や施設の情報提供	環境課	県内の公的機関、NPO等が実施する出前講座等の情報を学校へ提供するために取りまとめを行った。	県内の公的機関、NPO等が実施する出前講座等の情報を学校へ提供するために取りまとめを行った。	県内の公的機関、NPO等が実施する出前講座等の情報を取りまとめ学校へ提供した。	環境教育・環境学習を実施する個人・団体を小中学校に情報提供し、学校での環境学習を呼びかける。	-	県内の公的機関、NPO等が実施する出前講座等の情報を取りまとめ学校へ提供した。	A	県内の公的機関、NPO等が実施する出前講座等の情報を取りまとめ学校へ提供することで、環境教育の機会を増やすように努めた。	引き続き環境教育・環境学習を実施する個人・団体を小中学校に情報提供し、学校での環境学習を呼びかけるとともに、活用状況の把握に努める。	A	

(2)環境保全活動の促進

施策	主な取組	担当課	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績			第3期環境基本計画の中間年における総括				
			取組実績	取組実績	取組実績	取組内容	事業名	取組実績	評価	取組の総括 (成果、課題等)	今後の方向性	中間年 総括評価	備考
①市民・団体による環境保全活動の促進	市民による自主的な環境配慮活動の促進	環境課	民間事業者と連携してキッズIS014000プログラムの実施を予定したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。	家庭における環境に配慮した生活の実践をめざし、民間事業者と連携し、小学生を対象にキッズIS014000プログラムを実施する予定であったが、コロナ禍開催ということもあり事業者と調整する中で開催を見送った。令和4年度の開催に向けて事業者と働きかけを行った。	家庭における環境に配慮した生活の実践をめざし、民間事業者と連携し、小学生を対象にキッズIS014000プログラムを実施した。【実績】小学校1校 23人	家庭における環境に配慮した生活の実践をめざし、民間事業者と連携し、小学生を対象に家庭における省エネをテーマとした出前授業「こどもエコ活動」を実施する。	-	家庭における環境に配慮した生活の実践をめざし、民間事業者と連携し、小学生を対象に家庭における省エネをテーマとした出前授業「こどもエコ活動」を実施した。【実績】小学校1校 48人	A	新型コロナウイルス感染症の影響で実施できない年もあったが、民間事業者と連携し、小学生を対象に「キッズIS014000プログラム」、「こどもエコ活動」の出前授業を実施することにより、家庭における環境に配慮した生活の実践を通して、自主的な環境配慮活動の促進ができた。	家庭における環境に配慮した生活の実践をめざし、民間事業者と連携し、小学生を対象に家庭における省エネをテーマとした出前授業「こどもエコ活動」を引き続き実施する。	A	
		環境課	-	家庭でできる省エネの特集番組を6月にケーブルテレビで放送した。広報11月号で家庭でできる省エネ方法を紹介した。2月の省エネ月間に合わせ、商業施設でのパネル展示と啓発チラシの配布を行った。	商業施設や図書館で個人でできる環境配慮活動を紹介するパネル展示を実施した。広報紙でも家庭でできる省エネ等を掲載した。	家庭で実践できる環境配慮活動の啓発を行う。	-	商業施設などで個人でできる環境配慮活動を紹介するパネル展示を実施した。広報紙でも家庭でできる省エネ等を掲載した。	A	広報・ケーブルテレビ・パネル展示・街頭啓発等で省エネなどの環境配慮活動を啓発し、身近なところで実践してもらえるように促し、取組の結果が見えにくいことが課題である。	市民一人ひとりが環境問題を意識し自主的に活動を実践していけるよう、あらゆる媒体を活用し、継続的に啓発を行うことが必要であり、広報や街頭啓発等により、身の回りで実践できる環境配慮活動の啓発を行う。	A	
	自治会やまちづくり協議会等による環境保全活動の促進	環境課	勢田川七夕大そうじの開催を予定したが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止した。	勢田川七夕大そうじを開催し、沿岸自治会とともに勢田川沿岸を清掃した。また、少人数での清掃活動支援のためにボランティア清掃ゴミ袋を作成した。【実績】参加者数 568人 参加自治会数 11自治会	勢田川七夕大そうじを開催し、沿岸自治会とともに勢田川沿岸を清掃した。また、少人数での清掃活動支援のためにボランティア清掃ゴミ袋を配布した。【実績】ボランティア清掃ゴミ袋配布数 1,253枚	勢田川七夕大そうじを開催するとともに、ボランティア清掃ゴミ袋について少人数での清掃活動に活用いただくことで清掃・美化活動の活発化につなげる。	生活排水対策啓発事業	勢田川七夕大そうじを開催するとともに、ボランティア清掃ゴミ袋について少人数での清掃活動に活用いただくことで清掃・美化活動の活発化につなげる。【実績】ボランティア清掃ゴミ袋配布数 715枚	A	勢田川七夕大そうじを開催するとともに、ボランティア清掃ゴミ袋について少人数での清掃活動に活用いただくことで清掃・美化活動の活発化に定着してきた。	引き続き、勢田川七夕大そうじを開催するとともに、ボランティア清掃ゴミ袋について少人数での清掃活動に活用いただくことで清掃・美化活動の活発化につなげる。勢田川沿岸での七夕大そうじに代わる清掃・美化活動イベントを検討していく。	B	基本目標3-(2)-②の再掲
②事業者による環境保全活動の促進	事業者が実施する生物多様性活動や清掃活動との連携・支援	環境課	-	新型コロナウイルス感染症の影響で機会を得られなかったが、引き続き、民間事業者が実施する生物多様性活動や清掃活動等に参加・協力し、地域活動等への協力を推進していく。	事業者が行う生物多様性保全・清掃活動に参加・協力した。【実績】大湊海岸清掃	民間事業者が実施する生物多様性活動や清掃活動等に参加・協力し、地域活動等への協力を推進する。	-	事業者が行う生物多様性保全・清掃活動に参加・協力した。【実績】大湊海岸清掃、松尻川清掃	A	新型コロナウイルス感染症の影響で機会を得られないこともあったが、事業者が行う生物多様性保全・清掃活動に参加・協力し、地域活動等への協力を推進した。	引き続き、民間事業者が実施する生物多様性保全活動や清掃活動等に参加・協力し、地域活動等への協力を推進していく。	B	
	環境マネジメントシステム等に関する情報提供	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
③市民・事業者・行政の連携・協働	伊勢市環境会議等の協働事業の推進	環境課	伊勢市環境会議に、環境啓発に係る事業実施のための負担金を支出し、活動を推進した。	伊勢市環境会議に、環境啓発に係る事業実施のための負担金を支出し、学校・保育所等における出前講座等、コロナ禍においても実施可能な活動を推進した。	伊勢市環境会議に、環境啓発に係る事業実施のための負担金を支出し、学校・保育所等における出前講座等、コロナ禍においても実施可能な活動を推進した。	伊勢市環境会議に環境啓発に係る事業実施のための負担金を支出し、生活排水対策啓発事業等の活動及び脱炭素の取組・啓発活動を推進する。	生活排水対策啓発事業、衛生一般経費	伊勢市環境会議に環境啓発に係る事業実施のための負担金を支出し、生活排水対策啓発事業等の活動及び脱炭素の取組・啓発活動を推進した。	A	伊勢市環境会議に環境啓発に係る事業実施のための負担金を支出し、生活排水対策啓発事業等の活動及び脱炭素の取組・啓発活動を推進した。	市民との協働及び地域とのつながりを強化すべく、市民及び事業者等から成る伊勢市環境会議に引き続き環境啓発に係る事業実施のための負担金を支出し、活動を推進する。	A	
		ごみ減量課	伊勢市環境会議に、環境啓発に係る事業実施のための負担金を支出し、活動を推進した。	・食品ロスの削減、3Rの推進をテーマに、MOTTAINAIポスターコンクールを実施した。(R3実績：応募数 422点)	・食品ロスの削減、3Rの推進をテーマに、MOTTAINAIポスターコンクールを実施した。【実績】応募数 397点	食品ロスの削減、3Rの推進をテーマに、MOTTAINAIポスターコンクールを実施する。	きれいなまちづくり推進事業	・食品ロス削減をテーマに小中学生を対象としたMOTTAINAI(もったいない)ポスターコンクールを実施した。【実績】ポスターコンクール応募数 394点	A	MOTTAINAI(もったいない)ポスターコンクールを実施し、小中学生に対して、食品ロス削減を考えるきっかけづくりや意識向上を図れた。	持続的な啓発のために、引き続きMOTTAINAI(もったいない)ポスターコンクールを実施する。	A	基本目標2-(1)-①の再掲
	各主体間の情報共有・連携の促進	環境課	伊勢市の環境問題や対策について啓発・情報発信を行うため、環境フェアの開催を予定したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。	伊勢市の環境問題や対策について啓発・情報発信を行うため、環境フェアの開催を予定したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。【実績】開催日 令和4年10月10日 来場者 5,000人	伊勢市の環境問題や対策について啓発・情報発信を行うため、環境フェアを開催した。【実績】開催日 令和4年10月10日 来場者 5,000人	環境フェア等を開催し、伊勢市の環境問題や対策について啓発・情報発信を行う。	環境フェア等開催事業	伊勢市の環境問題や対策について啓発・情報発信を行うため、環境フェアを開催した。【実績】開催日 令和5年10月9日 来場者 8,000人	A	伊勢市の環境問題や対策に係る啓発・情報発信を行うことを目的とした環境フェアについて、令和2年度～3年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中止したが、令和4年度～5年度は開催し、来場者に対して環境意識の向上や市などが取り組む施策への理解・協力を促した。より多くの方に啓発をするために、来場者数増加に努める必要がある。	引き続き環境フェア等を開催し、伊勢市の環境問題や対策について啓発・情報発信を行う。来場者数増加を図るため、内容の充実・開催に係る周知方法などを検討する必要がある。	B	基本目標5-(1)-①の再掲